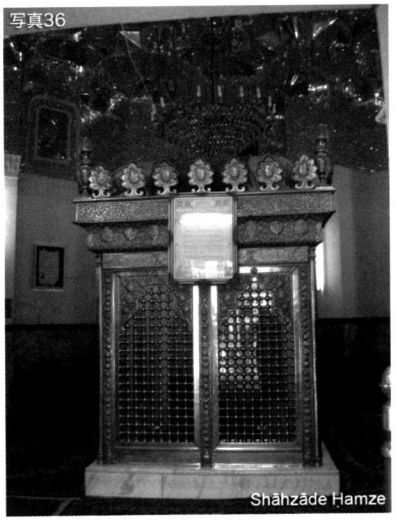

写真36　Shāhzāde Ḥamze。入り口からハラム内に向かって。それほど広いハラムではないが、アーイーネカーリーで飾られ、シャンデリアが下がるなど、華やかに飾られている。

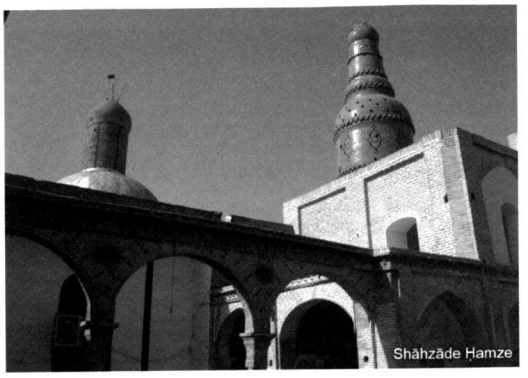

写真37　内部でつながっているShāhzāde Ḥamzeとその祖父Emāmzāde Aḥmadの廟のそれぞれのドーム。Emāmzāde Aḥmadはまだ改修が済んでいないため、ドームはむき出しの煉瓦のまま。

写真38　Shāhzāde Ḥamze。正面エイヴァーンに貼られたコバルト色のタイル。剥落を防ぐため、文化遺産観光庁により補修工事が行われている。

写真39　Shāhzāde Ḥamze。敷地内のほとんど全てが新旧の墓で埋め尽くされている。

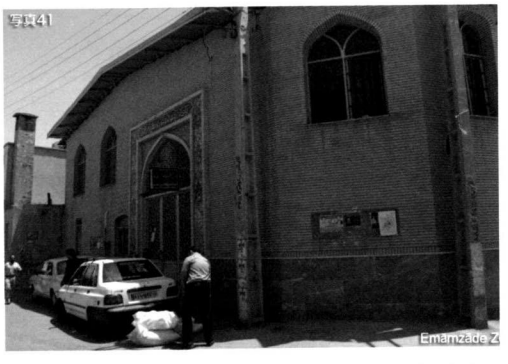

写真41　Emāmzāde Zeid。写真中央左寄りに見える小さな表示看板がなければ、ここに廟があるとは気がつかず、マスジェドかホセイニーエだろうと通り過ぎてしまう。

写真40　Shāhzāde Ḥamze内のEmāmzāde Aḥmadのザリー。以前はそれぞれ独立した廟であったが、現在はエマームザーデ・ハムゼのハラムから訪れるようになっている。

写真42　Emāmzāde Zeid。建物内部。緑色の蛍光灯が中に見える左端の扉がハラム。他の三つはマスジェド。

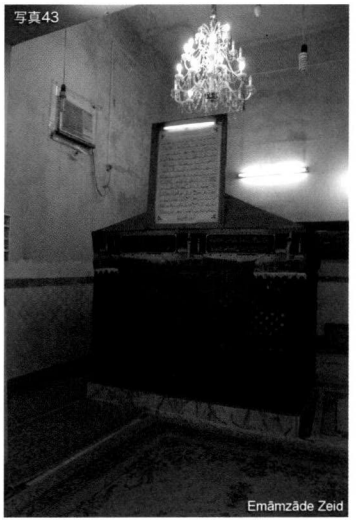

写真43　Emāmzāde Zeid。木製のザリーが置かれたハラム。ザリーの上にはズィヤーラト・ナーメが乗っている。飾り気のないシンプルな部屋。

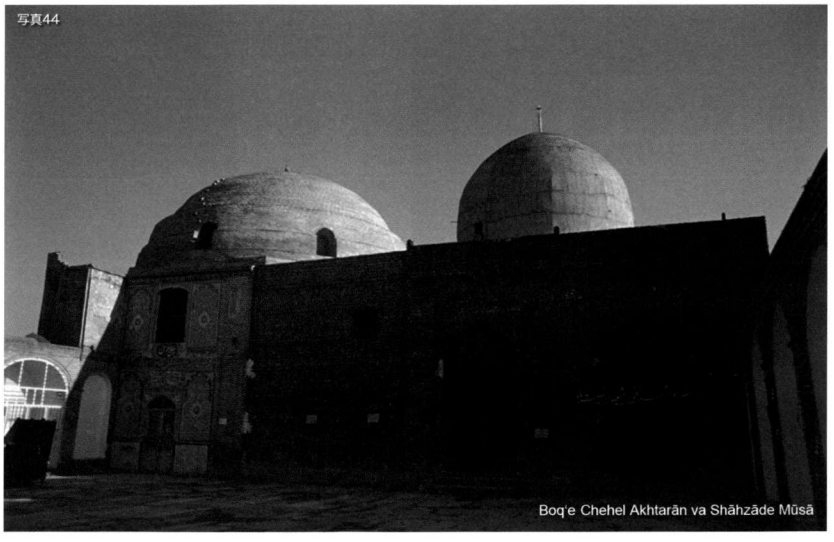

写真44　Shāhzāde MūsāとBoq'e Chehel Akhtarān。二つあるドームのうち、右側のドーム部分がShāhzāde Mūsā。現在、二つの廟は入り口と礼拝用サロンを共有している。

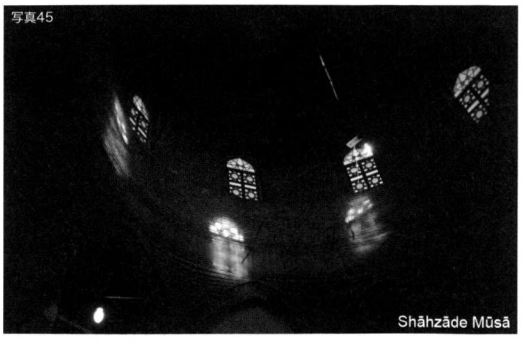

写真45　Shāhzāde Mūsā。ドーム内部。まだ色ガラスが入っただけで煉瓦がむき出しのままだが、アーイーネカーリーで飾るつもりであるとのこと。

写真46　Shāhzāde Mūsā。ザリーにすがりつくようにして祈る女性。何カ所かで足を止めながら、ザリーの周囲を一周する。

写真47　Boq'e Chehel Akhtarān。ザリーの中。一辺が9メートルという巨大ザリーの中はタイルで底上げされ、40人分のナフルが置かれていた。

写真48　Boq'e Chehel Akhtarānコンプレックスへの入り口。バーザール近くの下町の雰囲気が残る。買い物の人々などがサフンを通り過ぎていく。

写真49　Shāhzāde Zeid。Boq'e Chehel Akhtarānと墓地を挟んで向き合っている。家族墓や水場、管理事務所などが並ぶ中に入り口があるため、少々分かりにくい。

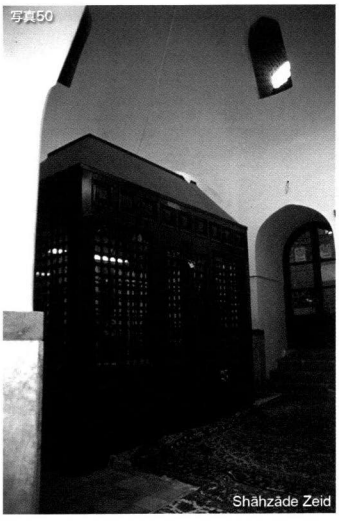

写真50　Shāhzāde Zeid。緑に塗られた木製のザリーが置かれたハラム。入り口から。ハラムは狭いが左手奥にもう一部屋あり、そこで礼拝などを行うことができる。

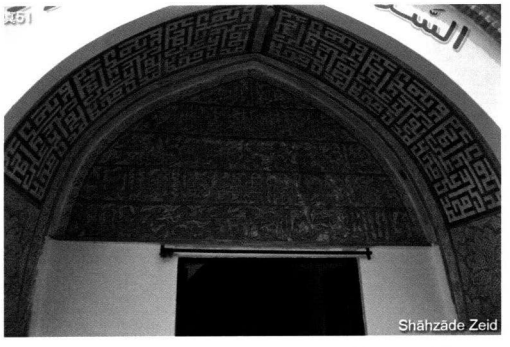

写真51　Shāhzāde Zeid。入り口部分に施された15世紀頃のものとされるギャッチボリー。

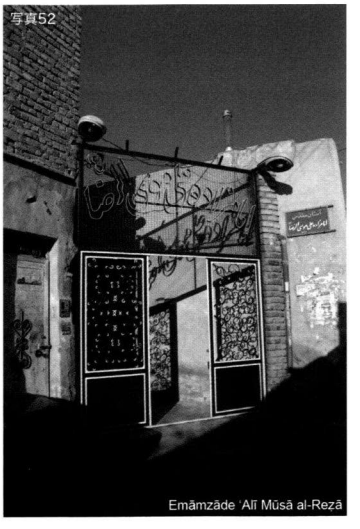

写真52　Emāmzāde 'Alī Mūsā al- Reẓā。民家が並ぶ中に設けられた敷地への入り口だが、電飾や看板がなければ他の家のものと区別がつきにくい。

写真53　Emāmzāde 'Alī Mūsā al- Reẓā。ハラム脇に設けられた小部屋からザリーを見る。こぢんまりした廟にふさわしい小振りなザリー。写真奥の男性は廟のモタヴァッリー。

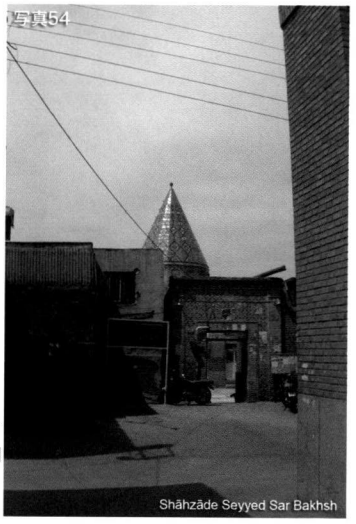

写真54　Emāmzāde Shāhzāde Seyyed Sar-Bakhsh。大通りから小路の奥の廟に向かって。民家や商店に囲まれた中、青いドームが目印となる。

写真55　Emāmzāde Shāhzāde Seyyed Sar-Bakhsh。塔状の廟に部屋が付け加えられ、塔に裏の建物が迫っているのが分かる。

写真56　Emāmzāde Shāhzāde Seyyed Sar-Bakhsh。壁の大理石を一部切り取って、その裏の金網を利用してダヒールがびっしりと結ばれている。同様の場所がハラム内に3カ所ほど見られる。

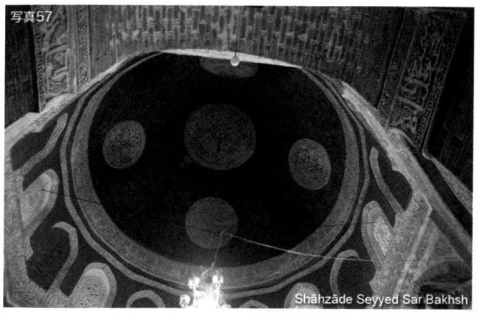

写真57　Emāmzāde Shāhzāde Seyyed Sar-Bakhsh。天井ドームを見上げて。ドームの周囲をギャッチボリーが飾り、ドーム内にもギャッチボリーによる飾りが見られるが、その他は煉瓦を生かした素朴な作り。

写真58　Emāmzāde Shāhzāde Seyyed Sar-Bakhsh。2009年に訪れたときには、ドームをはじめとする建築年代の古い部分の修復が行われていた。

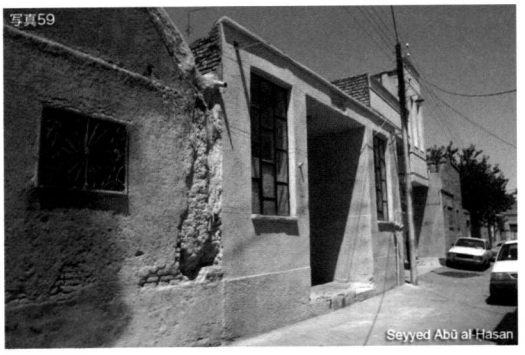

写真59　Seyyed Abū al- Ḥasan Reẓā。外見は、完全に周囲の住宅と同じ作りになっており、廟であることを示す表示等もないため、しばらく探し回ることになってしまった。

写真60　Seyyed Abū al- Ḥasan Reẓā。廟内に置かれた大理石の墓石。部屋の四辺とは角度が違っているが、これはゲブレの向きに合わせてあるためらしい。

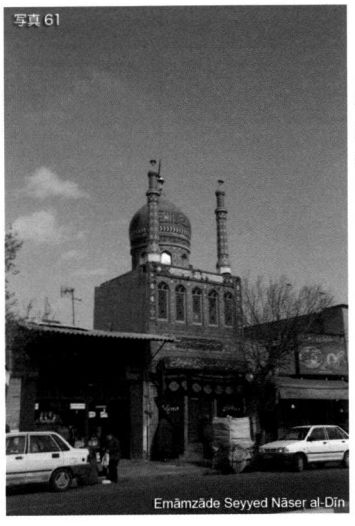

写真61　Emāmzāde Seyyed Nāṣer al-Dīn。周囲の商店と同じ間口、同じ奥行きしかないことが分かる。

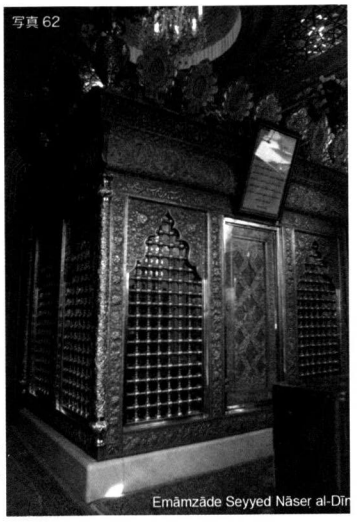

写真62　Emāmzāde Seyyed Nāṣer al-Dīn。男女に分けられた男性側ハラム。それほど広くない廟内の中央に大きなザリーを置き、男女にスペースを分けているため、それぞれのスペースは数人が入るといっぱいになってしまう。

写真63　Emāmzāde Seyyed Nāṣer al-Dīn。金属製の格子が取り付けられた廟の正面壁面。通りがかりの人々がこの格子に触れ、接吻するなどしてエマームザーデへの崇敬の念を示して行く。

写真64　Masjede Emām Ḥasan 'Asgarī。現在、Emāmzāde Seyyed Nāṣer al-Dīnとは道路を挟んで向かい側に建つ。大規模な建築工事中。ハラムに近いこともあり、周囲はいつも人と車で混み合っている。

写真65　Shāhzāde Aḥmad b. Qāsem。ゴムで時々見られる突起の出たドームを持つ。敷地内いっぱいにびっしりと墓石が並んでいる。ゴム市に編入され、市街地整備によって敷地が削られる以前はもっと広く墓地が広がっていたという。

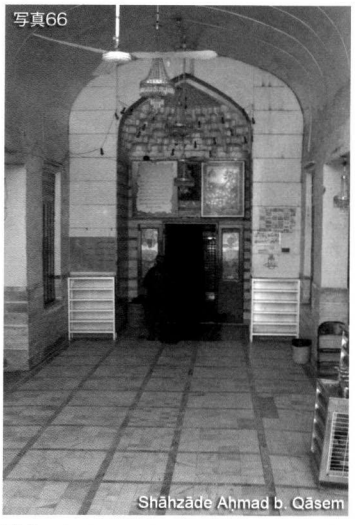

写真66　Shāhzāde Aḥmad b. Qāsem。ハラム入り口前。黒い幕の向こうがハラム。2006年当時、男女は分けられていなかったが、2009年には分けられていた。向かって右手が男性スペース。分けたスペースを男女どちらに当てるかについて規則はないとのこと。

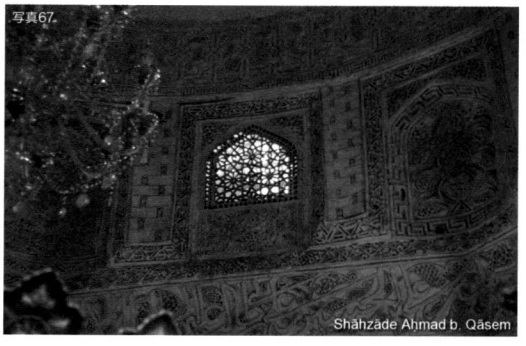

写真67　Shāhzāde Aḥmad b. Qāsem。ハラム内に施されたギャッチボリー。最近、修復が行われ、その際に、光沢のある真っ白なペンキで塗られてしまった。

写真68　Shāhzāde Aḥmad b. Qāsem。廟の背後から。被葬者の頭部近くに植えられた木の多くは切り倒されてしまったが、こちら側には一部が残っている。墓石の向きが列によって異なる理由は不明。

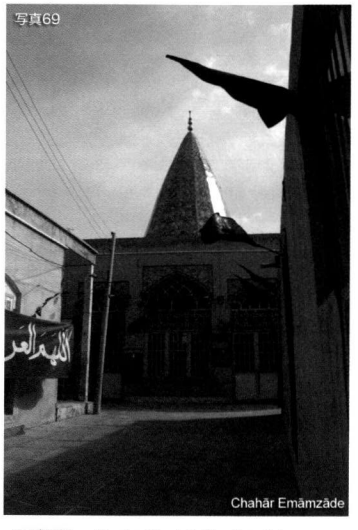

写真69　Boq'e Chahār Emāmzāde。通り側から。通路の両脇は廟に付属する施設。

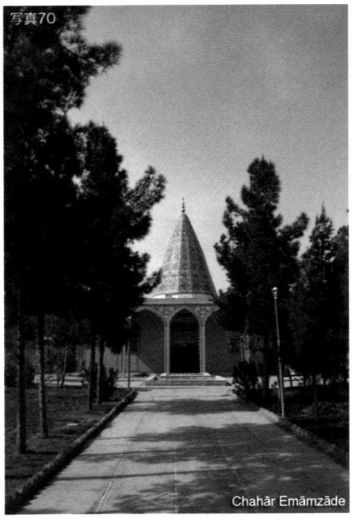

写真70　Boq'e Chahār Emāmzāde。庭園側から。通り側からも庭園側からも廟に入ることができる。庭園はズィヤーラトに訪れた人や、近所の人々の憩いの場ともなっている。

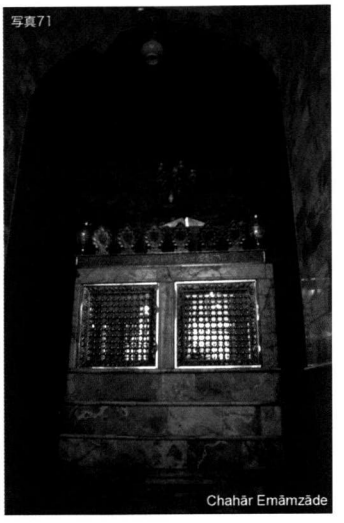

写真71　Boq'e Chahār Emāmzāde。ハラム中央に置かれたザリー。エスファハーン型だが、通常銀色の金属で覆われている部分が大理石張りになっている。ハラム内も大理石張りでひんやりと涼しい。

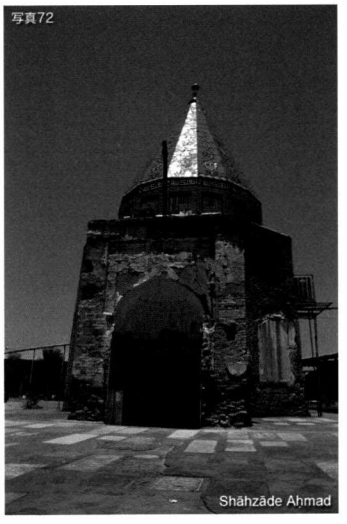

写真72　Emāmzāde Aḥmad。ドームに貼られたタイルの修復は終わっているが、塔状の廟本体は傷みが目立つ。

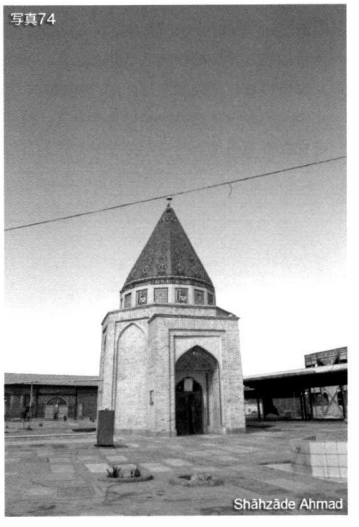

写真74　Emāmzāde Aḥmad。2009年、改修が完了していた。廟の周囲は墓地が取り囲んでおり、向かって右手に見える屋根のかかっている部分は殉教者墓地。

写真73　Emāmzāde Aḥmad。ハラム天井ドーム。こちらも修復が終わり、彩色されたギャッチボリーで飾られている。写真右上部に見えるのは冷房用のダクト。

写真75　Shāhzāde Seyyed 'Alī。廟の正面から。数年かけて廟の改修を行っている最中で、ところどころ壁芯の煉瓦がむき出しのままになっている。

写真76　Shāhzāde Seyyed 'Alī。改修中のため足場が組まれているハラム内。ほこりをかぶらないようザリーにはビニールがかぶせられている。昼の礼拝の時間帯になると、多くの人々が訪れ、Shāhzādeにに触れたり接吻したりして帰って行く。

写真77　Shāhzāde Seyyed 'Alī。廟内で仕事中のアーイーネカーリー職人と、休憩中の廟の管理人たち。2006年時点でハラム内の仕事はほぼ終わっていたが、まだ廟内全体を飾る仕事が残っているとのことであった。

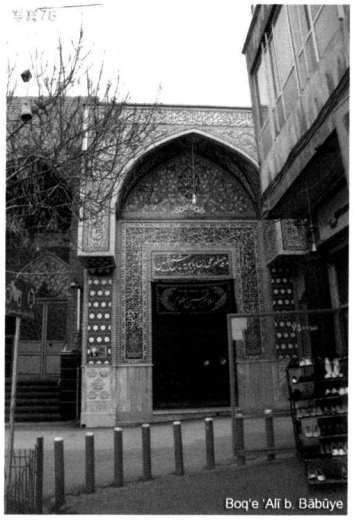

写真78　Boq'e 'Alī b. Bābūye。表通りから目に入るのはこの入り口。こちらは礼拝の時間以外は鍵がかかっており、もう一つの入り口に気がつかないとがっかりして帰る羽目に陥る。

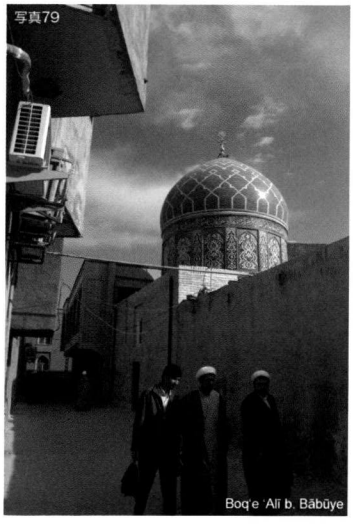

写真79　Boq'e 'Alī b. Bābūye。建物に沿って右手に曲がるとようやく廟のドームが見える。ドームの下の小さな扉は日中は開いており、ズィヤーラトができるようになっている。ドームと外壁は改修済み。

写真80　Boq'e 'Alī b. Bābūye。ハラム内は改修中のため、床がはがされ、足場が組まれ、外した扉や建築資材が置かれているが、ズィヤーラトのために訪れる人は多い。

写真81　Boq'e 'Alī b. Bābūye。ハラム内の壁面に残された装飾の一部。周囲の壁は削り落とされているが、これだけは残されている。

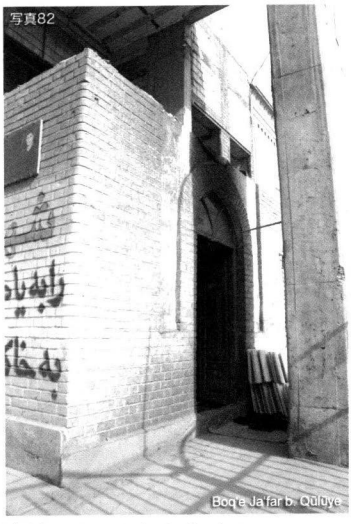

写真82　Boq'e Ja'far b. Qoulūye。
廟の周囲の整備に伴い、廟も裏手のパッサージュ（一種のショッピングモール）に組み込まれ、とりあえずという形で小部屋が作られている。

写真83　Boq'e Ja'far b. Qoulūye。
廟の入り口から。中央の墓石を囲んで座ることができる程度の広さしかないが、常に誰かが座ってドアーを詠んでいたり、言葉を交わしていたりする。

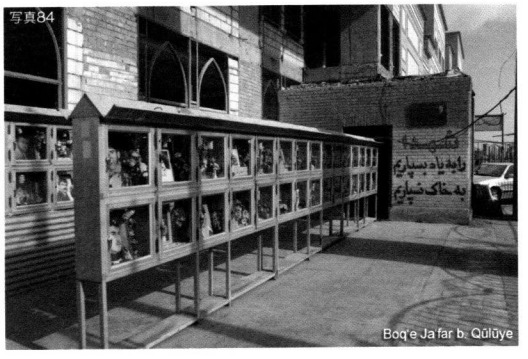

写真84　Boq'e Ja'far b. Qoulūye。廟脇の殉教者墓地。遺影などを収めたアルミボックスが並び、殉教者墓地であることを示し、床面にはびっしりと、殉教者の名前と戦死者であることを示すシンボルが彫り込まれた小さな墓石が埋め込まれている。

写真85　Maqbareye 'Alī b. Ebrāhīm。
パッサージュの通路に置かれたエスファハーン型のザリー。パッサージュへの入り口から。

写真86　Maqbareye 'Alī b. Ebrāhīm。パッサージュの別な角度から。大人に連れられた子供もまねをしてザリーに接吻していく。

写真87　Maqbareye 'Alī b. Ebrāhīm。パッサージュ外側の柱に貼り付けられた案内ポスター。人々の関心を集めるための工夫がされている。

写真88　Qabrestāne Sheikhān。ハラム前のバーザールの中にある墓地はさほど広くないが、びっしりと墓石が並び、ズィヤーラトの人々や通り抜けるだけの人々が行き交う。

写真89　Qabrestāne Sheikhān。
殉教者の遺影を収めたアルミボックスが墓地の壁の三辺に設置されている。地面に横たわっているのは、そこに葬られた人物の家族。

写真90　Qabrestāne Sheikhān。Maqbare Mīrzā Qommīの廟。
墓参の人やハラムへのズィヤーラトの人々が多く立ち寄っていく。

写真91　Qabrestāne Sheikhān。Maqbare Mīrzā Qommīのザリー。小さな廟を更に男女に分けているため、それぞれ三人も入ればいっぱいになってしまうほど。人が多く集まる土曜日の午後などは、順番待ちの列ができることもある。

写真92　Qabrestāne Sheikhān。Maqbare Zakariyā b. Ādam Ash'arī Qommīの廟。外壁に取り付けられたいくつものアルミボックスは、著名なモッラーや殉教者の写真等が収められている。

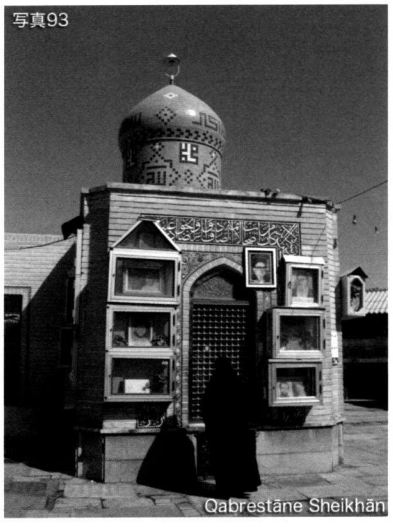

写真93　Qabrestāne Sheikhān。Maqbare Zakariyā b. Ādam Ash'arī Qommīの廟。こちらの壁に寄せてザリーが置かれており、外壁に取り付けられたザリーを通して中の墓石を見ることができるようになっている。廟内は男性が多く、女性はこのザリーを通して祈ることが多い。

写真94　Qabrestāne Sheikhān。
Maqbare Zakariyā b. Ādam Ash'arī Qommīの廟。
ザリーに向かい熱心に祈る男性。木曜日の午後や宗教的な休日には、このように熱心に祈る人々の姿を多く見ることができる。

写真95　Qabrestāne Sheikhān。Ārāmgāhe Ḥāj Seyyed 'Alī Farsh-vash Ḥoseinī Ardahālīの廟。しかし、この廟内に葬られている著名なアーヤトッラー、Ḥāj Seyyed Moḥammad Ḥasan Ṭabasī Ḥā'erīの墓に向けて祈っている人が多い。

写真97　Ziyāratgāhe Setīye Khātūn。小さなメイダーンに面したマスジェド（Masjede Beit al-Monavvar）。礼拝の時間以外は扉は閉じられており、礼拝の時間になると人々が集まってくる。

写真96　Qabrestāne Sheikhān。Ārāmgāhe Ḥāj Seyyed 'Alī Farsh-vash Ḥoseinī Ardahālī廟内の入り口脇にあるḤāj Seyyed Moḥammad Ḥasan Ṭabasī Ḥā'erīの墓。海外からズィヤーラトのためにゴムにやってきた人が熱心にこの墓に向かって祈っているのを目にすることも珍しくない。

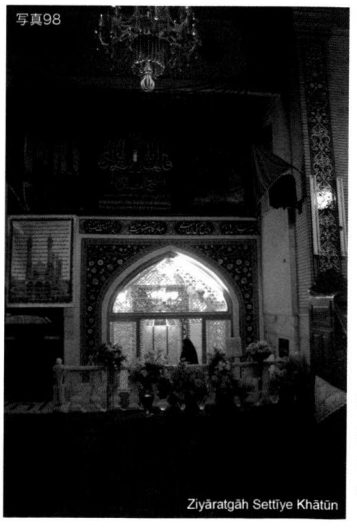

写真98　Ziyāratgāhe Setīye Khātūn。マスジェドの奥に置かれたズィヤーラトガー。多くの聖所のようにザリーや墓石が置かれているのではなく、ゲブレを示す壁龕があるだけの小部屋。

写真99　Ziyāratgāhe Setīye Khātūn。ゲブレに向かって祈る女性たち。男性はゲブレに触れてすぐに出て行く。ここは、基本的に女性たちのスペースとなっている。

写真100　Maqbareye Bābā Mosāfer。正面部分とドームの改修が終わったばかり。

写真101　Maqbareye Bābā Mosāfer。普段は鍵がかけられて中に入れないため、願い事のある人はとりあえず、扉の取っ手にダヒールやタスビーフを結んでいる。

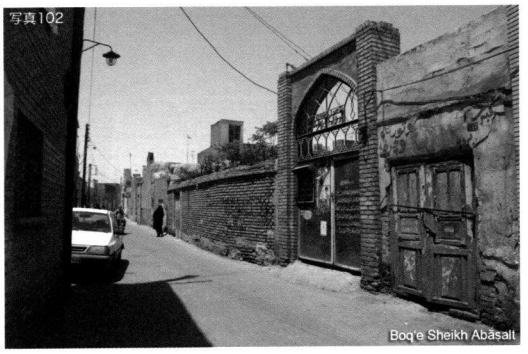

写真102　Boq'e Sheikh Abāṣalt。古い街区の中に置かれた廟。看板の取り付けられたこの扉は特別なとき以外開けられないとのこと。用のある人は、この並びの菓子屋の裏口から敷地内に入る。

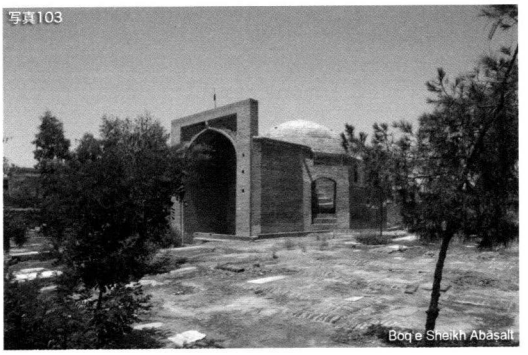

写真103　Boq'e Sheikh Abāṣalt。古い墓に囲まれた改修済みの廟。手前に古い墓が見えるが、以前はもっと広く墓地が広がっていたのを整地し、現在は隣接する小学校になっているとのこと。墓地の端の方には新しい墓も見られる。

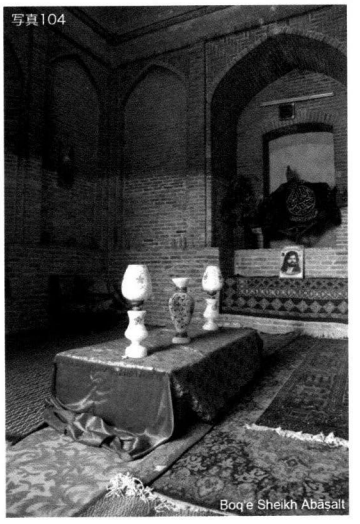

写真104　Boq'e Sheikh Abāṣalt。廟内は煉瓦のままの装飾のないシンプルなもの。通りに面した門は閉まっているが、廟の鍵は開いたままになっており、廟内の様子にも、人が訪れている様子が感じられる。

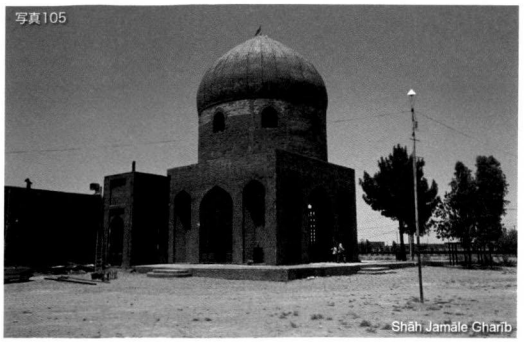

写真105　Shāh Jamāle Gharīb。2006年。新しい廟を建築中。廟内も床がはがされたり、ザリーが取り払われたりしているが、ジャムキャラーンを訪れる人が立ち寄ったりで、木曜日や休日などは賑わっている。

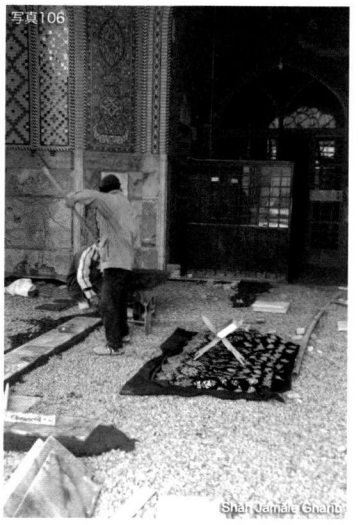

写真106　Shāh Jamāle Gharīb。
工事中の廟内。大理石張りになるとのことであるが、それまではザリーもなく、墓石は布で覆われただけで置かれている。

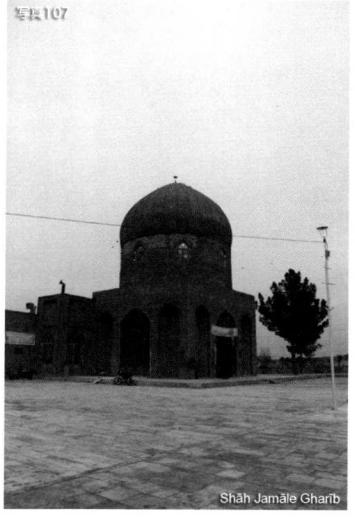

写真107　Shāh Jamāle Gharīb。2009年になっても工事がそれほど進んだようには見えない。ドーム下部分に色ガラスが入っていることくらいしか違いがないようである。

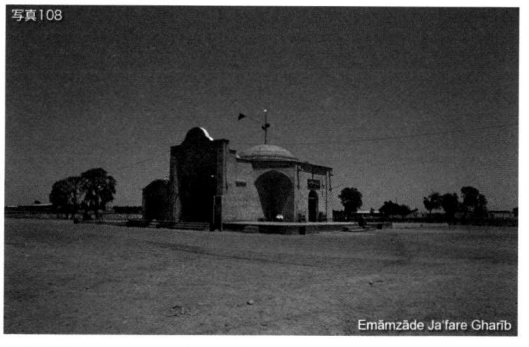

写真108　Emāmzāde Ja'fare Gharīb。Shāh Jamāel GharībとMasjede Jamkarānの中間点にあり、ジャムキャラーン詣での人々や、ジャムキャラーン・ツアーの大型バスも多く立ち寄っている。

写真109　Emāmzāde Ja'fare Gharīb。廟から100メートルほど離れた場所にある、煉瓦で囲われた跡のある小さなタッペ。廟を訪れた人がここでろうそくを灯しているが、どうしてこの場所なのかについて明確な説明は得られなかった。

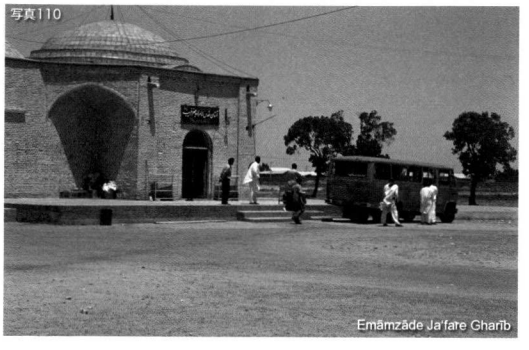

写真110　Emāmzāde Ja'fare Gharīb。ジャムキャラーン・ツアーのミニバス。パキスタンから長距離バスを乗り継いでズィヤーラトにやってきたとのこと。

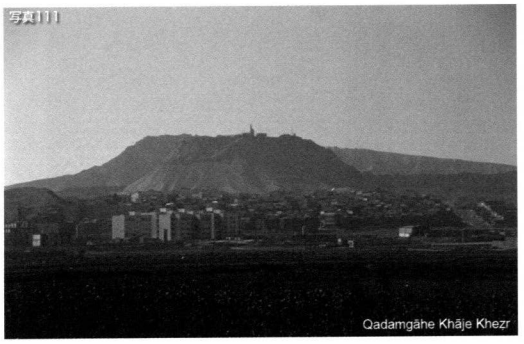

写真111　Kūhe Khezre Nabī。ゴムから向かう街道の途中で。この地域によく見られる円錐形の丘の上に建てられた廟。丘の下には新しい町が広がる。

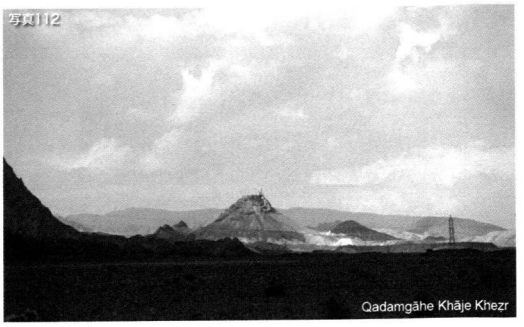

写真112　Kūhe Khezre NabīからEmāmzāde 'Alī Reẓā、ジャムキャラーンへ向かう街道で振り返ってみると、ひときわ高い丘の上に廟があることに気づく。

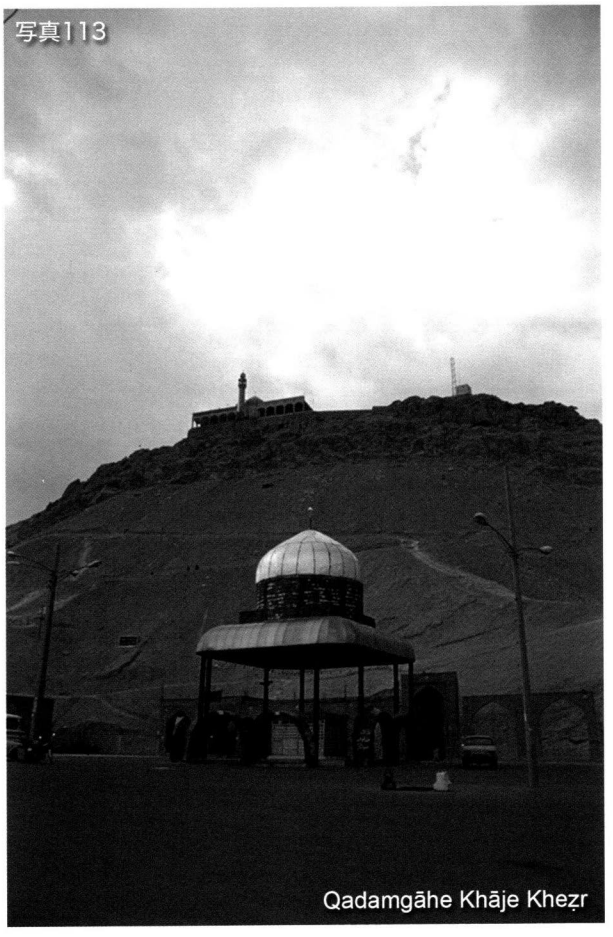

写真113　Kūhe Khezre Nabī丘の下に作られた駐車場から廟を見上げる。手前は殉教者の墓。ザリーが設けられ、ズィヤーラトガーとして人々が祈っているのを見ることができる。

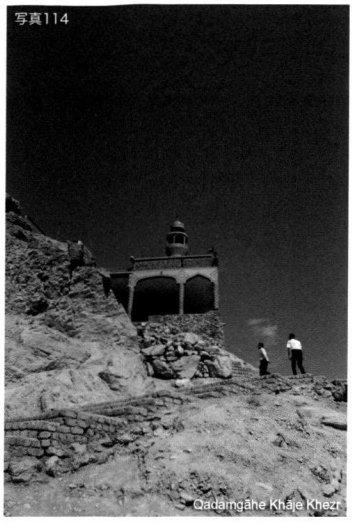

写真114　Kūhe Kheẓre Nabī。丘を登り切ると廟が見えて来る。それ以前の小さな建物を取り壊し、大きなマスジェドを建築中。

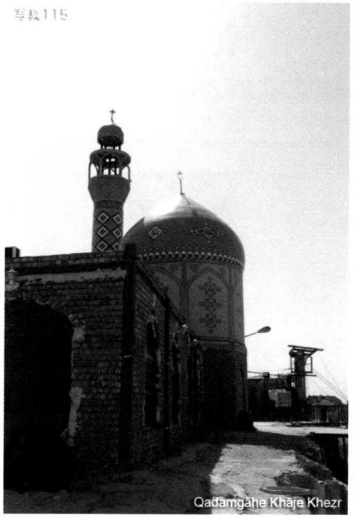

写真115　Kūhe Kheẓre Nabī。丘の上の平らな部分をいっぱいに使ってマスジェドを建築中。メインのドーム部分とゴルダステは完成。

写真116　Qadamgāhe Kūhe Kheẓre Nabī。マスジェドの中に作られたガダムガー。細い通路奥の小部屋。

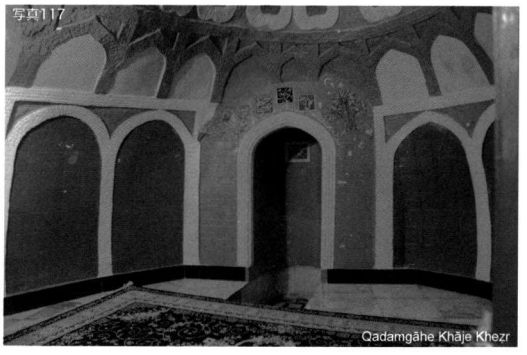

写真117　Qadamgāhe Kūhe Kheẓre Nabī。ガダムガーは３～４人でいっぱいになってしまう程度。足跡らしきものは絨毯をめくっても見つからない。ゲブレに触れるだけで出て行く人や、礼拝を行って出て行く人など様々。

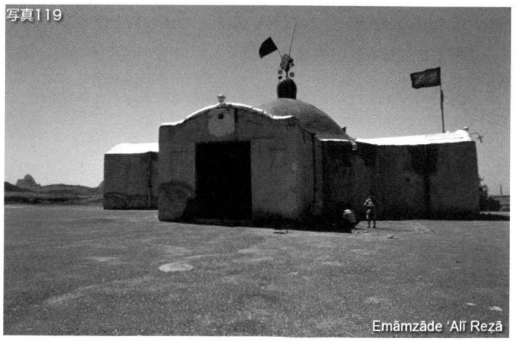

写真119　Emāmzāde 'Alī Reẓā。ズィヤーラトの家族が昼食を取っている。人里離れたビヤーバーンの中のエマームザーデだが、非常にシャファーがあるためにゴム近郊の人々が多く訪れるとのこと。

写真118　Kūhe Kheẓre Nabī。マスジェドの外側から結ばれたダヒールと南京錠。他にも数カ所、ちょっとした出っ張りを利用してダヒールが結ばれていた。

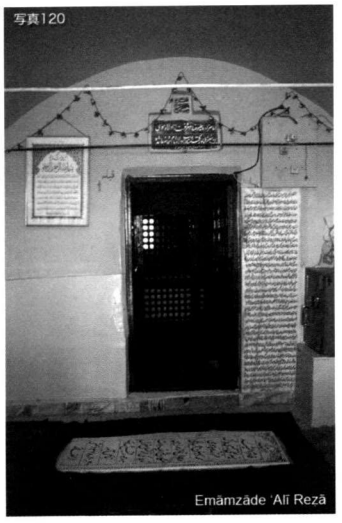

写真120　Emāmzāde 'Alī Reẓā。ハラム入り口。入り口前の墓石は、この廟のハーダムだった人物のもの。エマームザーデへの信仰の篤さ故に、できるだけその近くに葬られたいと、埋葬場所にこうした敷居近くを選ぶ人も多い。

写真121　Emāmzāde 'Alī Reẓā。ザリーと自分を鎖で結び、そのバラキャトを得ての病気快癒を願う。本人はほとんど意識がなく、家族が付き添い、祈り続けていた。

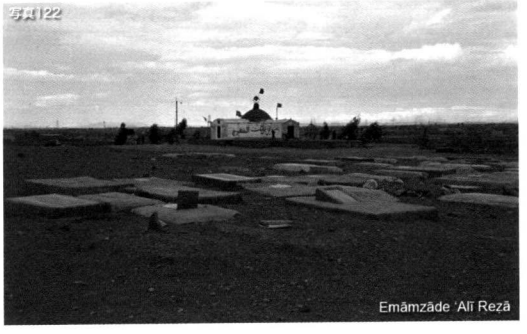

写真122　Emāmzāde 'Alī Reẓā。廟の周囲には新旧の墓が多数見られる。写真では分かりにくいが、大きめの自然石が置かれている場所が古い墓。

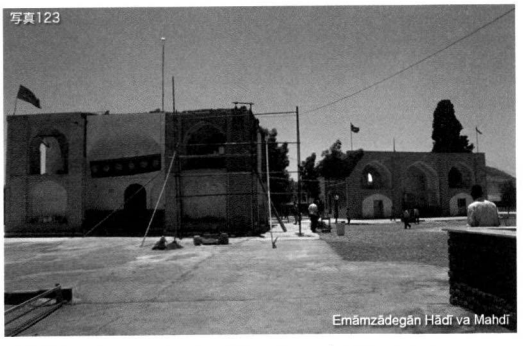

写真123　Emāmzādegān Hādī va MahdīとShāhzādegān Ja'far va Sakīne Khātūn。2006年。双方ともよく似た形をしており、区別がつけにくい。背後から見ると低いドームを持つが、正面から見ると見えない。

写真124　Emāmzādegān Hādī va Mahdī。向かって左手の廟。三方向からハラムに入れるが、これは廟に向かって右手の入り口から。

写真125　Emāmzādegān Hādī va Mahdī。2009年には改修が完了していた。ちょうど木曜日で、多くの人がジャムキャラーン・ツアーバスで訪れていた。

写真126　Shāhzādegān Ja'far va Sakīne Khātūn。向かって右手の少し奥にある廟。こちらは2006年当時で既に改修が完了していた。

写真127　Shāhzādegān Ja'far va Sakīne Khātūn。正面入り口。入り口の両脇に、内容の異なるズィヤーラト・ナーメが貼られている。このように、エイヴァーンにも絨毯が敷かれ、訪れる人が多いときなど、ここに座って時間を過ごしている人を見ることも多い。

写真128　Shāhzādegān Ja'far va Sakīne Khātūn。正面入り口脇にある倉庫への扉に結ばれたダヒール。最近、ザリーにダヒールを結ぶことを禁ずる廟も多く、こうした場所に結ばれているダヒールをしばしば見かける。

写真130　Derakhte Moqaddase Jamkarān。願い事をしながらタスビーフを投げ上げる。そうして投げかけられた色とりどりのタスビーフが枝から無数に下がっている。

写真131　Derakhte Moqaddase Jamkarān。糸杉を囲む柵に結ばれたダヒール。枝にダヒールを結ぶことが難しくなっても、近くに結ぶ人は絶えない。

写真129　Derakhte Moqaddase Jamkarān。Shāhzādegān Ja'far va Sakīne Khātūn の脇に立つ糸杉。人々の崇敬を集めており、以前は、手の届く範囲にびっしりとダヒールが結ばれていたとのことだが、現在は、木の保護を名目に柵で囲んでしまって、できなくなっている。

写真132　Derakhte Moqaddase Jamkarānの跡地。2009年。中央奥に見える白っぽい敷石が切り倒されてしまった糸杉の跡。訪れた際にはまだ切り倒されて間もなく、この木を目当てに訪れる人も見られたが、木がないことに一様に驚きを見せていた。

写真133　Masjede Jamkarān。訪問時にマスジェド正面で工事が行われていたため、写真は裏側からのみになってしまった。青いドームを挟んで手前が女性側のマスジェド。画面中央近くに見える木の下が、エマーム・マフディーの井戸。

写真134　Masjede Jamkarān。井戸に投げ込むための願い事を一心に書き込む女性たち。台にしているのは寄付を投じるための寄付金箱。

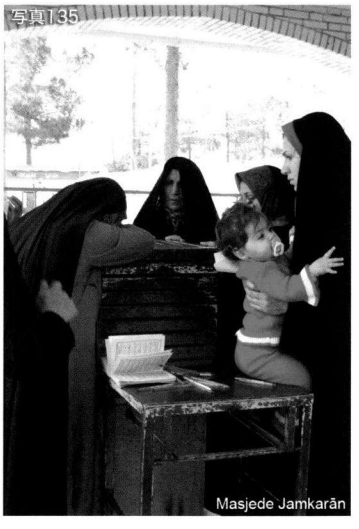

写真135　Masjede Jamkarān。エマーム・マフディーの井戸。この覆いの隙間から願い事を書いた紙を落とし込み、ドアーを詠んだり、井戸に伏せるようにして祈ったりする。

ゴム市西部地区（Qesmate Gharbīye Rūdkhāne）の聖所

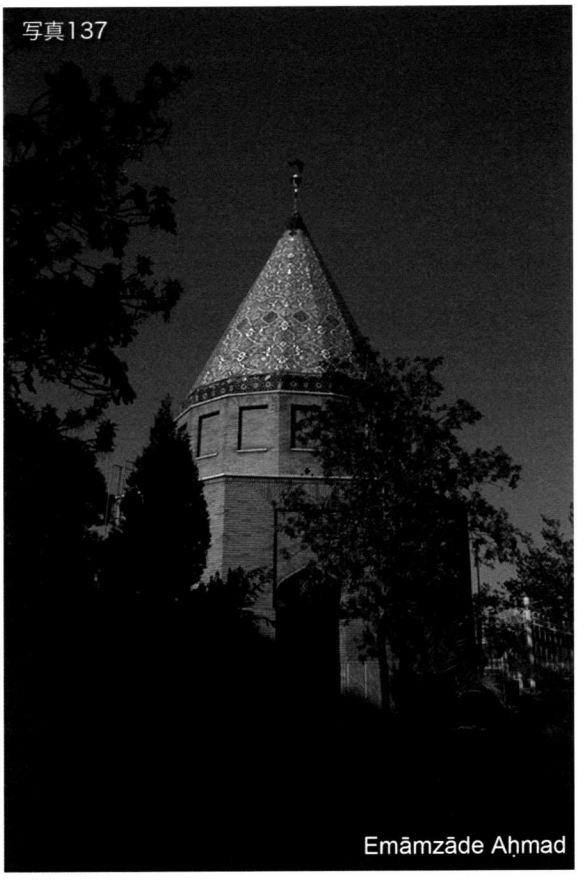

写真137　Emāmzāde Aḥmade Khākfaraj。廟の正面入り口から。張り直されたばかりの水色のタイルが空に映える。廟のちょうど裏側、病院との間に、Ka'beがあったとのことであるが、現在は完全になくなってしまっている。

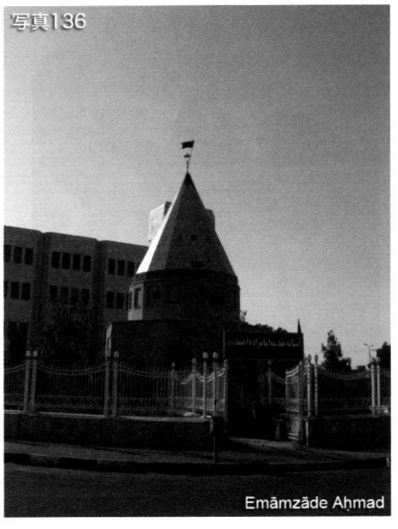

写真136　Emāmzāde Aḥmade Khākfaraj。以前は廟の後ろに見える病院の敷地も、手前のメイダーンも全て廟のサフンだった。

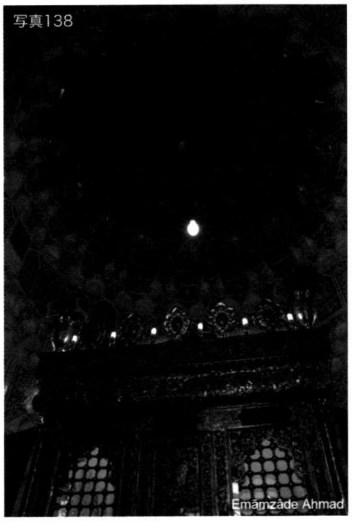

写真138　Emāmzāde Aḥmade Khākfaraj。ハラム天井部分。美しく作られたドーム内に電球一つという証明で、暗いが落ち着いた雰囲気を作り出している。

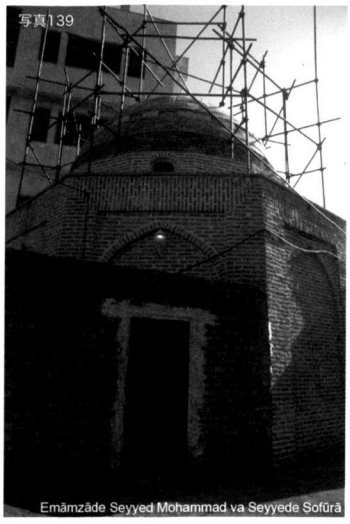

写真139　Emāmzādegān Seyyed Moḥammad va Seyyede Ṣafūrā。大規模改修中。ドームはタイルがほとんど落ちてしまっていたのを新たに張り直し、壁もほぼ全面的に修復された。

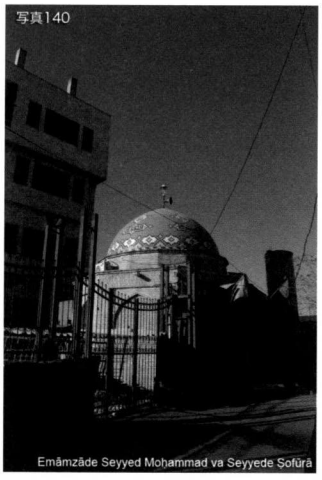

写真140　Emāmzādegān Seyyed Moḥammad va Seyyede Ṣafūrā。改修が終わり、ズィヤーラトの人々のために扉も開かれている。廟の手前の鉄柵は、廟の隣の病院への出入り口になる予定。

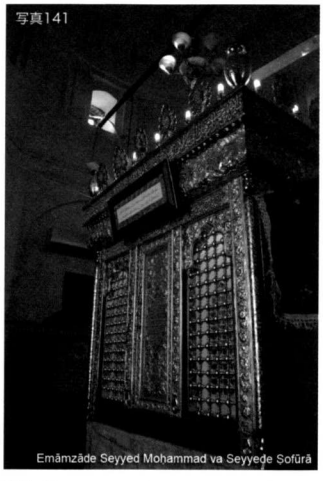

写真141　Emāmzādegān Seyyed Moḥammad va Seyyede Ṣafūrā。狭い廟内にザリーが置かれ、男女にスペースが分けられているため、数人が座るといっぱいになってしまう。

写真142　Shāh Ja'far。通り側から。商店が並ぶ中に建つ廟。エスファハーン風の青いタイルのドームが目印。

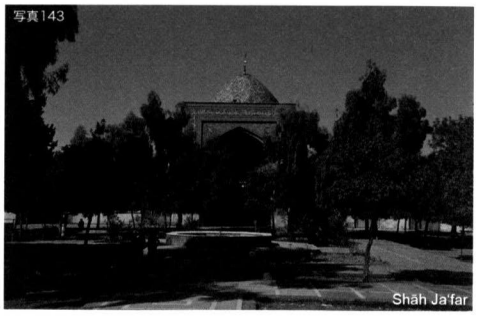

写真143　Shāh Ja'far。通りとは反対側から。ハラムへの入り口はこちら側にある。庭ではお弁当を広げる家族連れなども見られる。

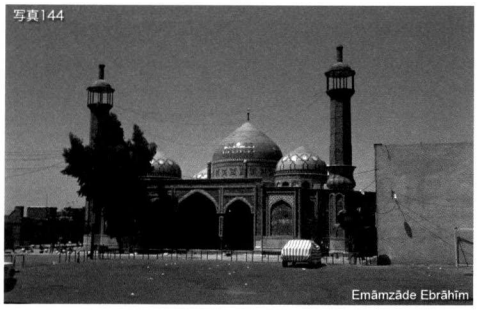

写真144　Emāmzāde Ebrāhīm。四つもの小ドームを従えた青いタイルのドームと、二本のゴルダステをもつ堂々たる廟。外壁の工事はまだ始めるめどが立っていないとのことであった。

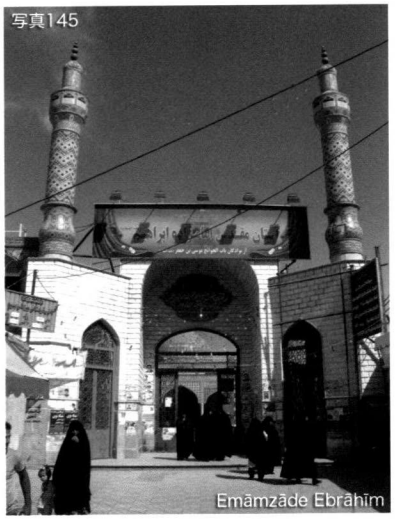

写真145　Emāmzāde Ebrāhīm。2010年に訪れた際には完成していた、通りに面したゴルダステを持つ門。多くの商店も並び、賑やかさが増している。

写真147　Emāmzāde Ebrāhīm。ハラム正面入り口から。本来、ここは男性の入り口・スペースなのだが、正面入り口にも当たっているため、ここから入り、ザリーに接吻を繰り返しながら女性スペースと男性のスペースを区切るカーテンをくぐって行く女性も多く見られる。

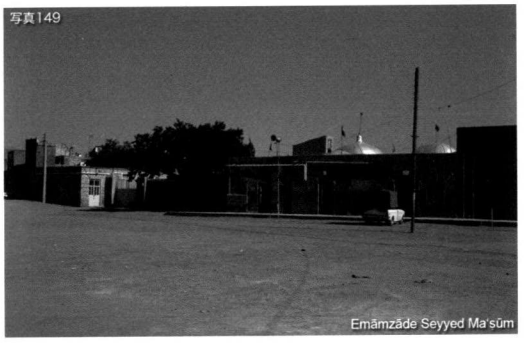

写真149　Emāmzāde Seyyed Ma'ṣūm。住宅が建ち並ぶ一角の外れで、低いドームが目印。カメラを向けたら逃げられてしまったが、女性たちが何組も、廟の前で座り込み、世間話に興じていた。

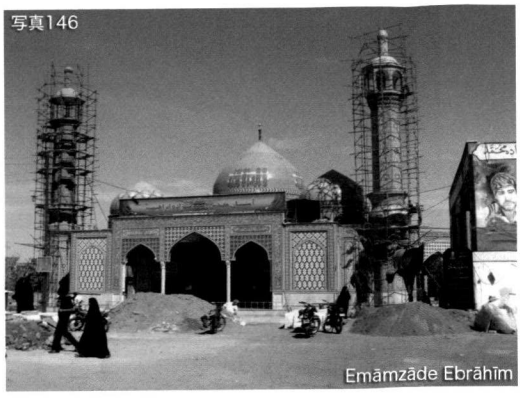

写真146　Emāmzāde Ebrāhīm。2010年には外壁のタイル張り工事もだいぶ進んでいた。廟の正面に土が盛り上げられているのは、墓地を掘り返しているため。単なる墓地の整理なのか、何か建てるのかは確認できず。

写真148　Emāmzāde Ebrāhīm。女性用スペースで眠る女性。願い事のある女性が長時間こうしている姿は珍しくない。

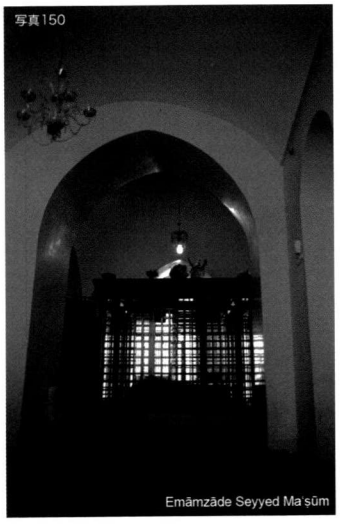

写真150　Emāmzāde Seyyed Ma'ṣūm。廟内では、廟の外と同じように女性たちや子供たちが集まり、話に興じていた。

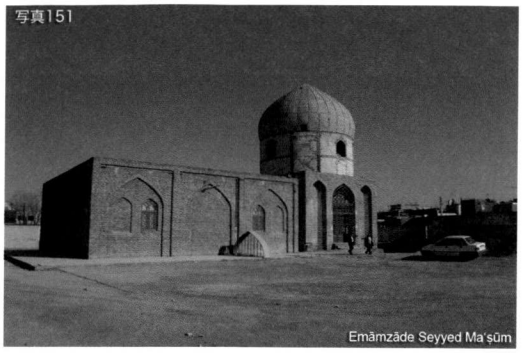

写真151　Emāmzāde Seyyed Ma'ṣūm。2009年。2006年に訪れた古い廟は取り壊され、大きなドームを持つ新しい廟が建てられていた。近所の人や自動車で乗り付けた人がズィヤーラトをし、また戻っていくのが見られる。

写真152　Emāmzāde Seyyed Ma'ṣūm。廟が完成するまでザリーはなく、墓石が直接置かれていた。ザリーは新しくなる予定とのことで、古いものがどうなったのかは確認できなかった。

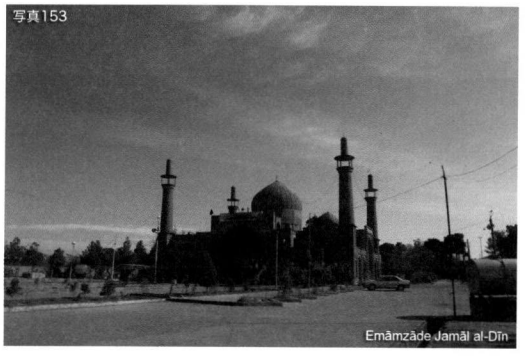

写真153　Emāmzāde Jamāl al-Dīn。建築途中の廟でぱっとしないが、ゴム-サラフチェガーン街道沿いに建つため、廟の周辺には自動車の修理工場や食堂が並び、ズィヤーラトや自動車で出かける家族連れを相手にするおもちゃの露天商やナッツ売りが店を広げてそれなりに賑やかである。

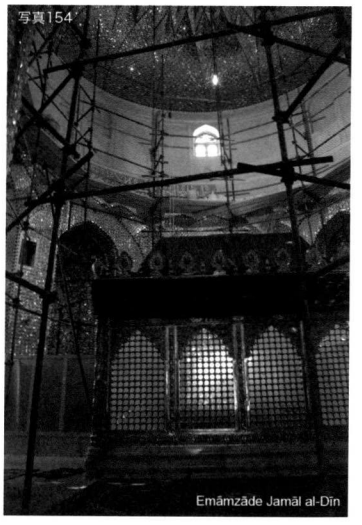

写真154　Emāmzāde Jamāl al-Dīn。ハラム内はタイルを貼ったりアーイーネカーリーを貼ったりする工事が進んでいる。最終的にはハラム全体がアーイーネカーリーで飾られる予定。

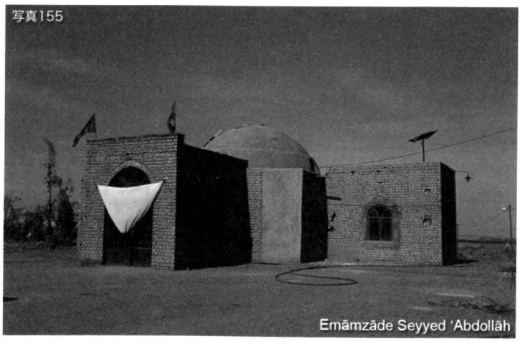

写真155　Emāmzāde Seyyed 'Abdollāh。あとから増築した四つの部屋の煉瓦はむき出しのまま。タイルや石で覆うのかと尋ねたところ、当分このままの予定とのこと。

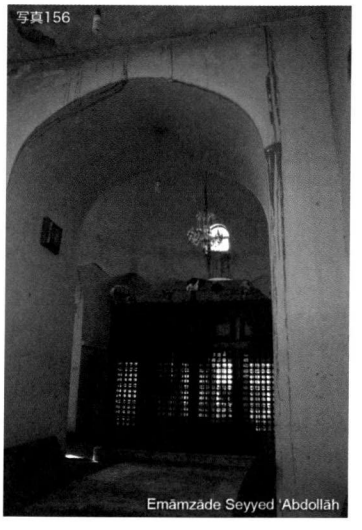

写真156　Emāmzāde Seyyed 'Abdollāh。ハラム内も雨漏りのため、白い漆喰に土の筋が幾筋も見られる。予算不足で修理にまではなかなかでが回らないとのこと。

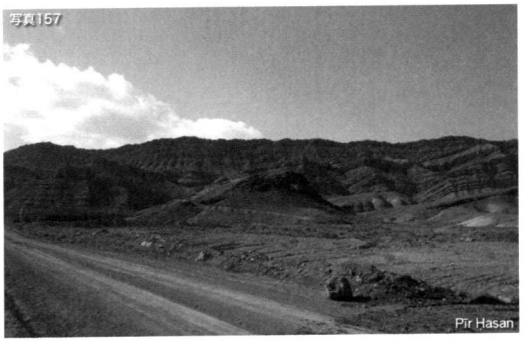

写真157　Pīr Ḥasan。写真中央に見える丘の上から飛び出して見える短い柱状のものがその一部。画面左端に見える揚水場があるため、ビヤーバーンの中ではあるがしっかりとした作りの未舗装の道路が作られており、乗用車でも容易にたどり着けた。

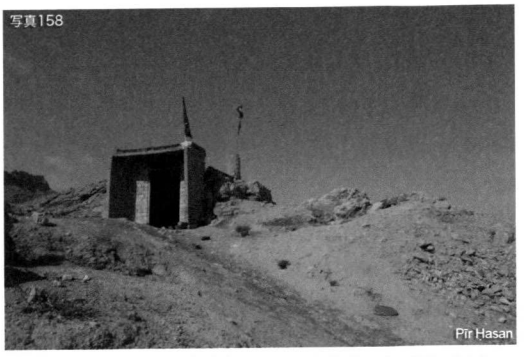

写真158　Pīr Ḥasan。作りかけのまま作業が止まっているらしい建物。取り付けられた旗はそれほど古いものではないが、廟の内外を見る限り、作業が進められる様子はなく、訪れる人も少なそうに見える。

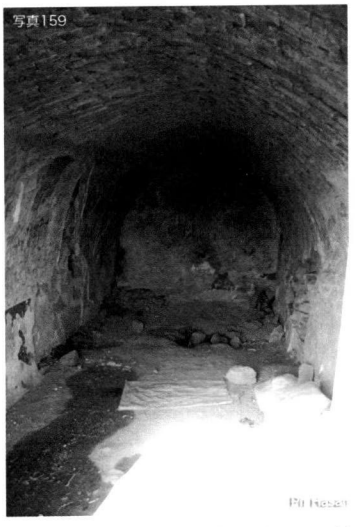

写真159　Pīr Ḥasan。廟内部。アーチ状の低い天井が奥まで続く。所々、緑色に塗られた以前の漆喰が残っているが、床ははがされ、盗掘の跡と思われる穴が所々あいている。

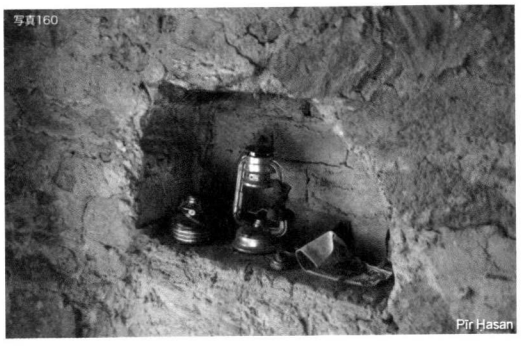

写真160　Pīr Ḥasan。壁に作られたくぼみに置かれたランプ。ダヒールもランプもほこりをかぶっておらず、誰かが訪れていることを示唆している。

写真161　Pīr Ḥasan。廟の裏手から揚水場（右手）と作業員用コンテナ（左手）を見下ろす。畑すらない荒れた土地が広がっている。写真左奥がゴム市方面。

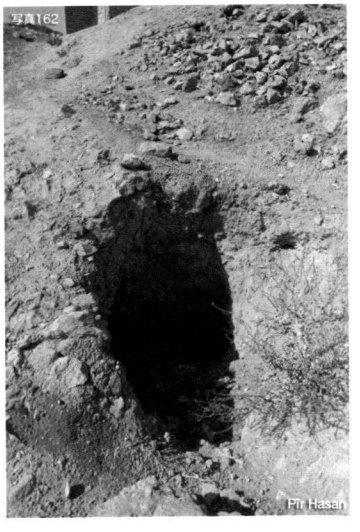

写真162　Pīr Ḥasan。廟の周囲にいくつもある盗掘の穴。かなり深くまで彫り込まれている。

ガナヴァート地区（Dehestāne Qanavāt）の聖所

写真163　Emāmzādegān Ṭayyeb va Ṭāher。本来の廟はドームの下の塔状の部分だけだが、そこにホセイニーエやマスジェドを増築するための工事が行われている。そのため、墓地の一部が掘り返され、整備が行われている。

写真165　Emāmzādegān Ṭayyeb va Ṭāher。ハラム天井。だいぶ薄くなっているが、糸杉(Sarv)や羚羊(āhū)、太陽婦人(khorshīd khānom)などが描かれているのが分かる。

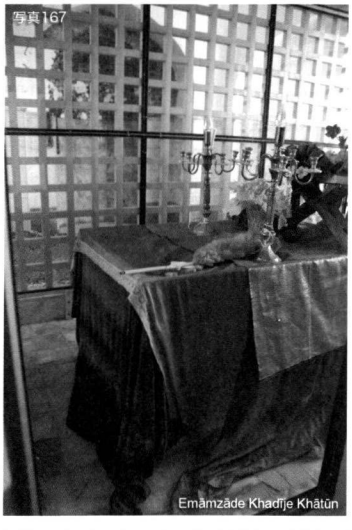

写真167　Emāmzāde Khadīje Khātūn。ザリーの中。緑の布の下は古いサンドゥーグとのこと。数年前に泥棒に入られてからは、木曜日の午後以外廟の扉を閉めてしまい、人々もあまり訪れなくなってしまった。

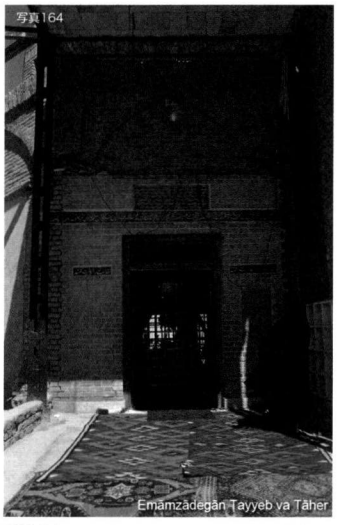

写真164　Emāmzādegān Ṭayyeb va Ṭāher。ハラム入り口。増築に伴い、入り口が本来の場所よりも前方に移動するため、靴脱ぎ場から敷物が敷かれている。これらの敷物も、信徒からの寄付によるもの。

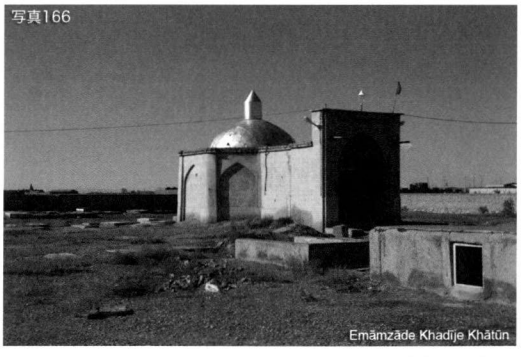

写真166　Emāmzāde Khadīje Khātūn。廟を中心に墓地が広がる。ドームにはイーゾガームと呼ばれる防水用のシートが張られている。安価なことと手軽に扱えること、そしてなにより銀色をしているということから、こうした銀色のドームが増えている。

写真168　Emāmzāde Khadīje Khātūn。ザリーに結ばれたダヒール。ザリーの内側にガラスが貼ってあるためダヒールが結びにくいのだが、ガラスが割れた部分を利用して結ぶことに成功。

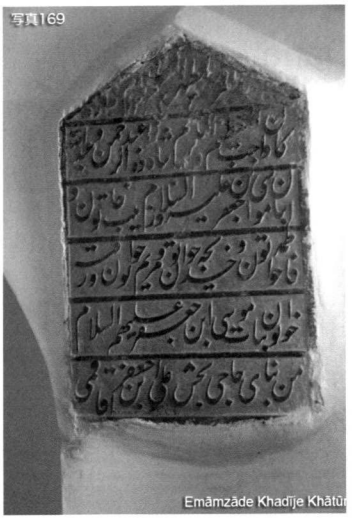

写真169　Emāmzāde Khadīje Khātūn。廟内の壁面に設置された、石に彫られたシャジャレ・ナーメ。

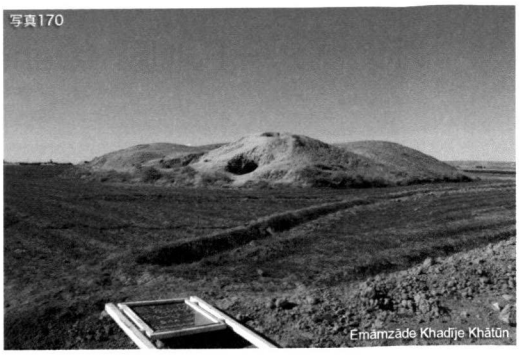

写真170　Emāmzāde Khadīje Khātūn。廟のすぐそばに見える小さなタッペ。特に表示はないが、文献における記述から、Khānqāhe 'Alī Safīという城塞跡と思われる。

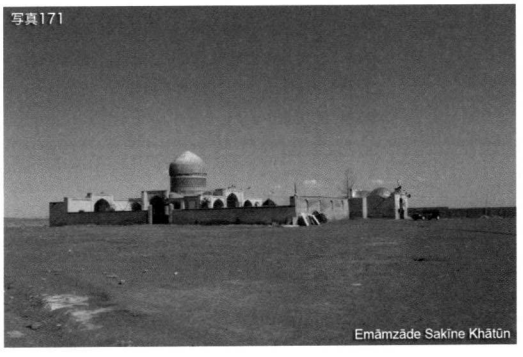

写真171　Emāmzāde Sakīne Khātūn。塀で囲まれた敷地の外は、畑も何もないビヤーバーンが広がる。塀に立てかけられているのは、塀の外に広がっていた墓地からはぎ取られた墓石。現在、塀の外に墓地はない。

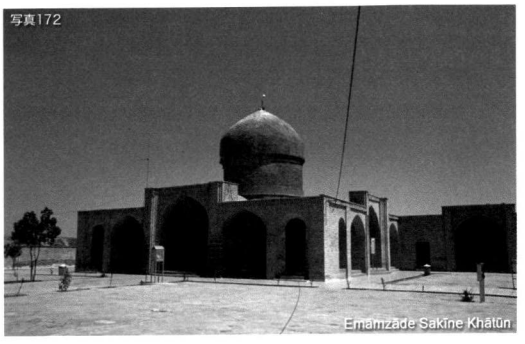

写真172　Emāmzāde Sakīne Khātūn。塀の中から。床面はブロックが敷き詰められている中にブロックと同じ高さにされた墓石が混じっている。

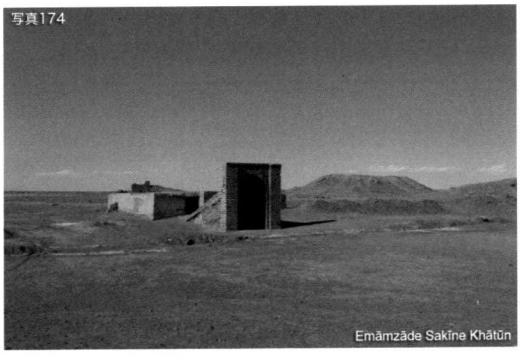

写真174　Emāmzāde Sakīne Khātūn。廟の塀の外に残るアーバーンバール。その後ろに見えるのはイスラーム期前後のものとされるタッペ。この乾燥した土地に人が住んでいた証拠。

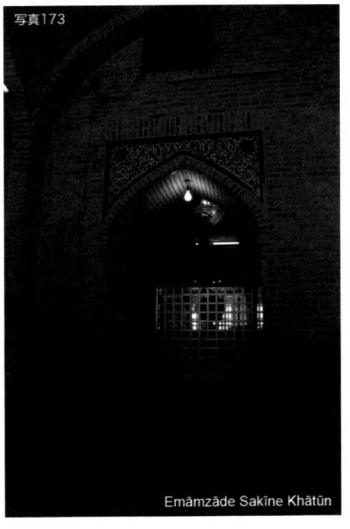

写真173　Emāmzāde Sakīne Khātūn。
改修が行われ、壁の煉瓦やタイルなどが美しくなったが、四方をサロンで囲まれたハラムは狭く、照明が暗いこともあって改修前のままの雰囲気を残している。

写真175　Boq'e Sheikh Nūr al-Dīn。うっすらと壁の跡はたどれるが、廟であったかどうかは全く分からない。町外れにあることもあって、この土地をなにかに利用としてはいないように見える。

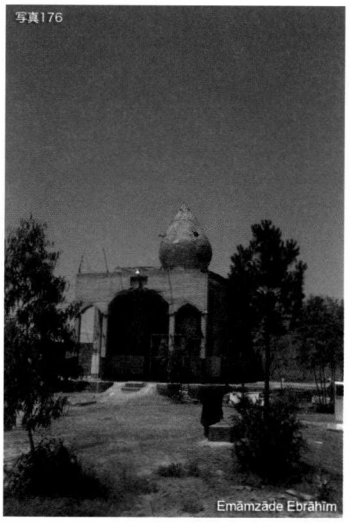

写真176　Emāmzāde Ebrāhīm。近年建てられたばかりの新しい廟。村の人によると、ドームや廟内の装飾も行いたいが、シャジャレ・ナーメがないためにワクフ慈善庁からの支援を受けにくいとのことであった。

写真177　Emāmzāde Ebrāhīm。入り口の扉を開けるとすぐ目の前に大きなザリーが迫っている。

写真178　Chehel Dokhtarān。麦畑の中に突然現れる人の背丈ほどの土のドーム。麦畑の中を通る廟までの道はしっかりと踏み固められ、人がよく通っていることを示唆している。

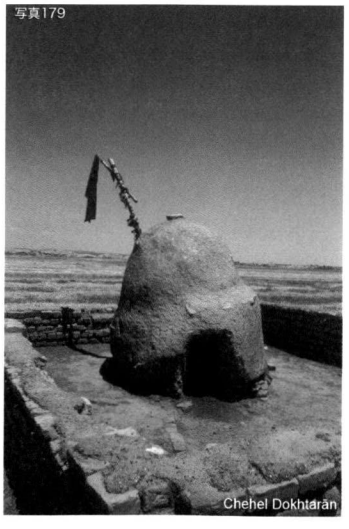

写真179　Chehel Dokhtarān。
ドームが傾いて見えるのは写真の問題ではなく、ドーム自身に斜線が入っているため。煉瓦を芯にして、土をその上から塗っていることが分かる。

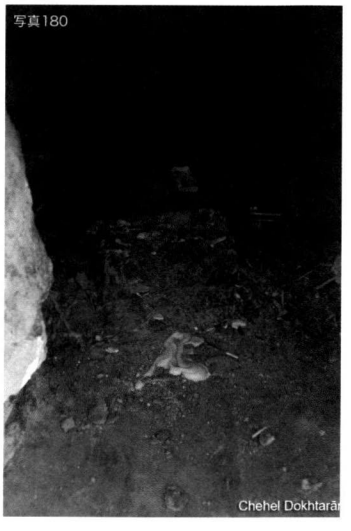

写真180　Chehel Dokhtarān。
ドーム内部。ろうそくを灯した跡が多数残る。まだ白く、新しいろうの跡も見られる。

写真181　Chehel Dokhtarān。廟に取り付けられた木の棒に結ばれたダヒール。それほど色あせてもおらず、他の人が結んだダヒールの端をその後訪れた人がまた結ぶなどして、いくつもの結び目が重なっているものも多く見られる。

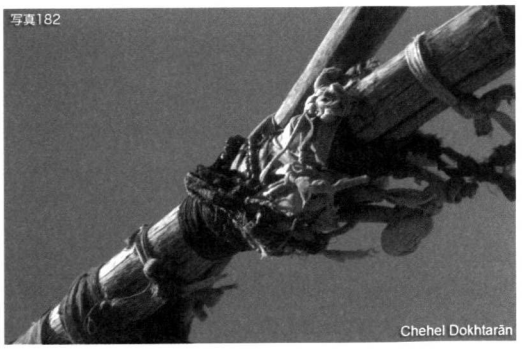

写真182　Chehel Dokhtarān。二本の棒を接いだ部分。ここにも何本ものダヒールやタスビーフが見られる。

ゴムルード地区（Dehestāne Qomrūd）の聖所

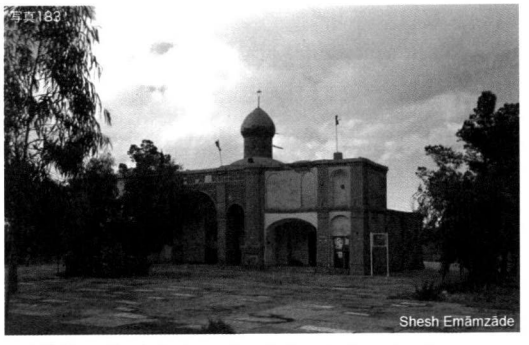

写真183　Shesh Emāmzāde。Shāhzāde Aḥmad b. Qāsem と似たドームを持つ廟。廟の周囲にはびっしりと墓石が並ぶ。

写真184　Shesh Emāmzāde。男性５人が埋葬されていると言われているアルミ製ザリー。写真の男性は廟の管理人。薄暗いハラムの奥では、女性が熱心に祈りを捧げていた。

写真185　Shesh Emāmzāde。Roqaiyeが葬られていると言われる墓を覆う小型アルミ製ザリー。写真を撮る間、この男性のように、ここで熱心に祈る人が多く見られた。

写真186　Shesh Emāmzāde。廟の裏手から。こちら側にも墓地が広がっているが、手前の土がむき出しになっている部分は墓石を持たない古い墓が広がっている。

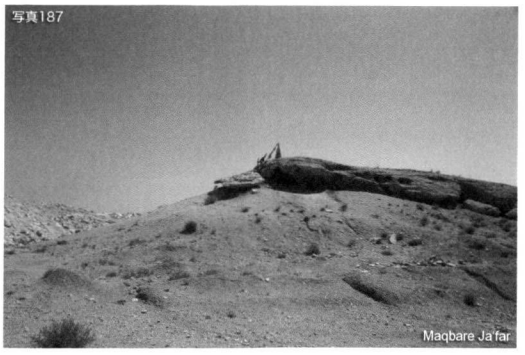

写真187　Maqbare Ja'far。石灰採取場の入り口から奥へと進むと、土のかたまりの向こうに突き出た竿や布が見える。それが聖所の目印。

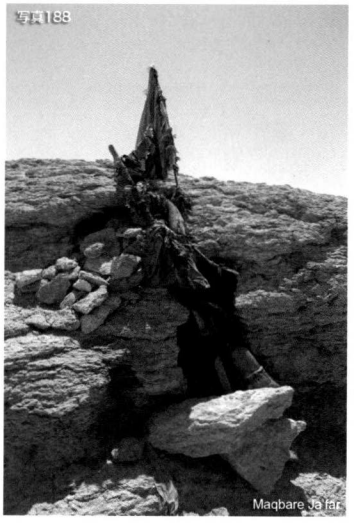

写真188　Maqbare Ja'far。土のかたまりを反対側に回り込むとこの状態。立てかけられた数本の木の棒にダヒールや布が多数結ばれている。倒れないように、手前の石で支えられている。

写真189　Maqbare Ja'far。木の棒や鉄筋に結ばれたダヒール。新旧様々な、色とりどりの布が多数結ばれている。色あせしていない、新しいものも多い。

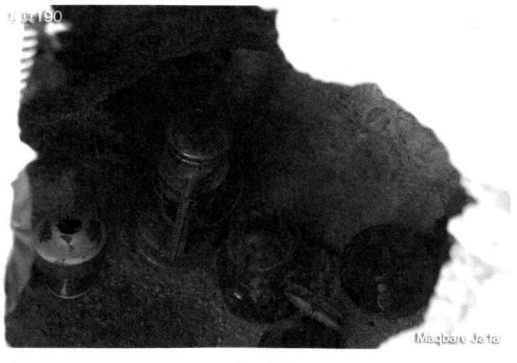

写真190　Maqbare Ja'far。棒の背後のくぼみに置かれたランプ。古いものだが、灯油が入ったものも見られる。すすなどは見られないので、これが灯されているのかどうか判断はできない。

写真191　Maqbare Ja'far。岩肌に見られる犠牲の跡。

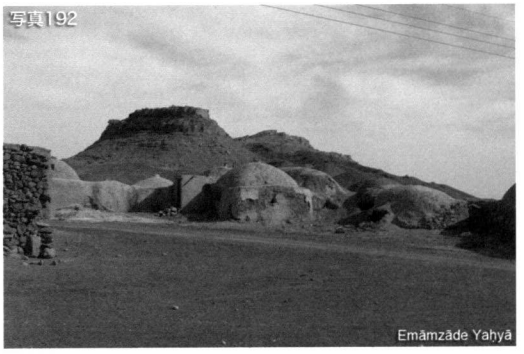

写真192　Rūstāye Ṣafar ābād。塩湖やḤouzeye Solṭānに続くキャビールの中の小さな村。背の低い土のドームが連なる。村の後ろに見える丘の連なりの背後がḤouzeye Solṭān。

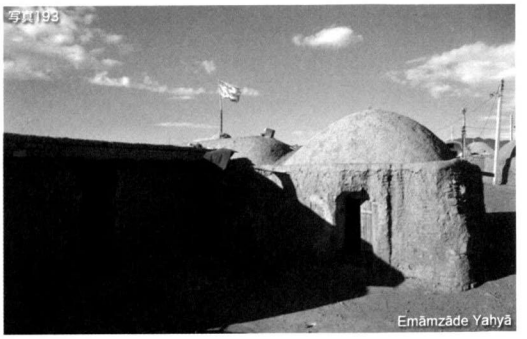

写真193　Emāmzāde Yaḥyā。右のドームの載った部屋は倉庫で、左側、日陰になっている方の扉が廟の入り口。ドームはないが、かまぼこ形ドームの上の旗でエマームザーデと分かる。手前のコンクリートブロックの建物は台所。

写真194　Emāmzāde Yaḥyā。台所脇に置かれた犠牲の羊などをつり下げるための鈎付きの枠。

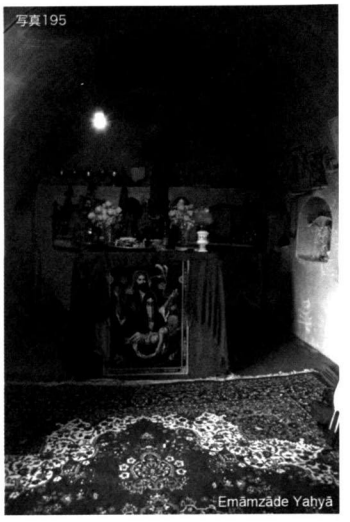

写真195　Emāmzāde Yaḥyā。ハラムに置かれた墓石。奥にはアラム。人口を考えると訪れる人は少ないはずだが、こざっぱりと整えられた居心地の良いハラムとなっている。

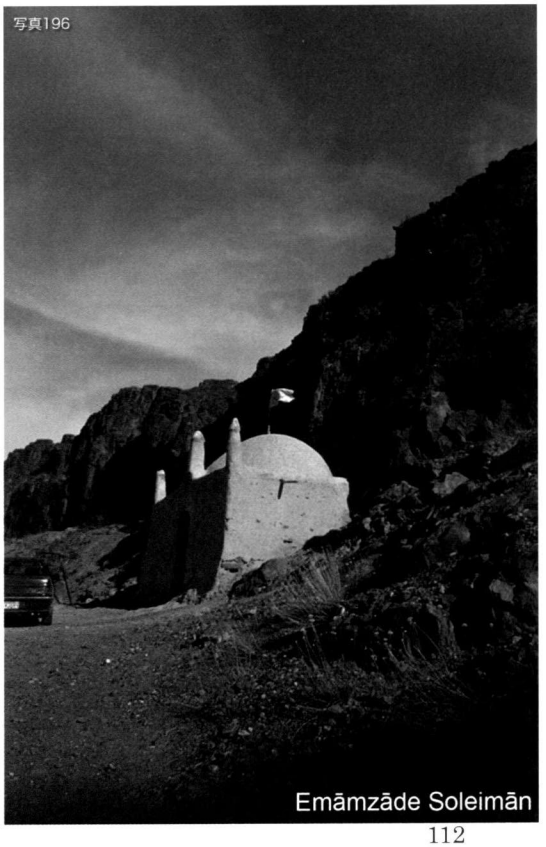

写真196　Emāmzāde Soleimān。
山肌に張り付くようにして建つ廟。
白い廟が黒っぽい岩肌の山と青空に映える。
廟の正面にはḤouzeye Solṭānまでビヤーバーンが続いている。

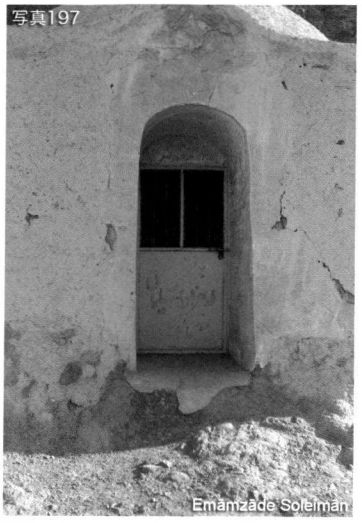

写真197　Emāmzāde Soleimān。廟の入り口。いつでも誰でも訪れることができるよう、鍵はかけられていない。扉には「エマームザーデ・ソレイマーンへようこそ」の文字。

写真198　Emāmzāde Soleimān。ハラム内の様子。手前に置かれた大きな墓石の後ろに、扉からの光もわずかしか届かない、真っ暗な岩のくぼみが続いている。

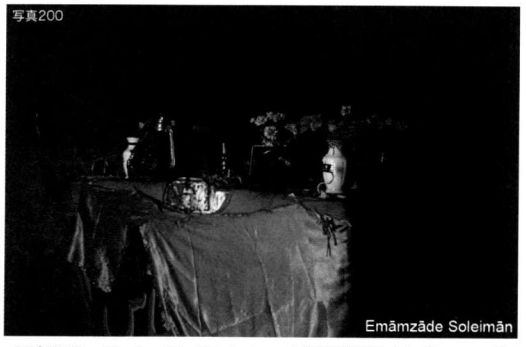

写真200　Emāmzāde Soleimān。大型の墓石の上には、コーランや鏡、造花など、様々なものが載っている。どれもほとんどほこりをかぶっておらず、定期的に人が通っている様子がうかがえる。

写真199　Emāmzāde Soleimān。ハラム奥の岩肌に張り付いたろうそくの跡。まだ新しいものもいくつも見られる。

写真201　Emāmzāde Soleimān。犠牲の動物を下げて捌くための鈎付き鉄枠。下の溝は流れる血などを受けるためのものとのこと。眼下にはḤouzeye Solṭānまで続くビヤーバーンが広がる。

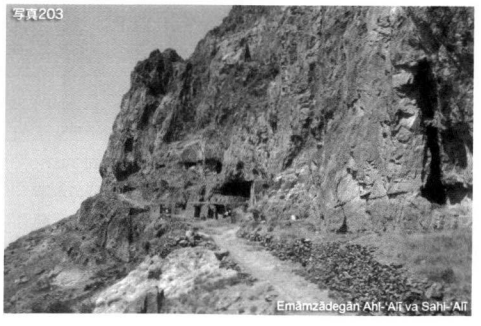

写真203　Emāmzādegān Ahl 'Alī va Sahl 'Alī。廟まで100メートルほど。最近作られた廟の周辺施設が見える。週末や宗教的休日は、弁当や犠牲の羊を連れた人々が山道に列を作るほどになる。

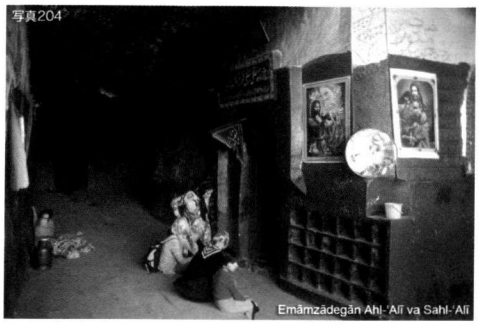

写真204　Emāmzādegān Ahl 'Alī va Sahl 'Alī。岩窟にすっぽりとはめ込まれた廟。そのため、天井の高さが奥に行くに従って下がっている。廟の手前には」腰掛けるのにちょうど良い高さの通路が作られている。

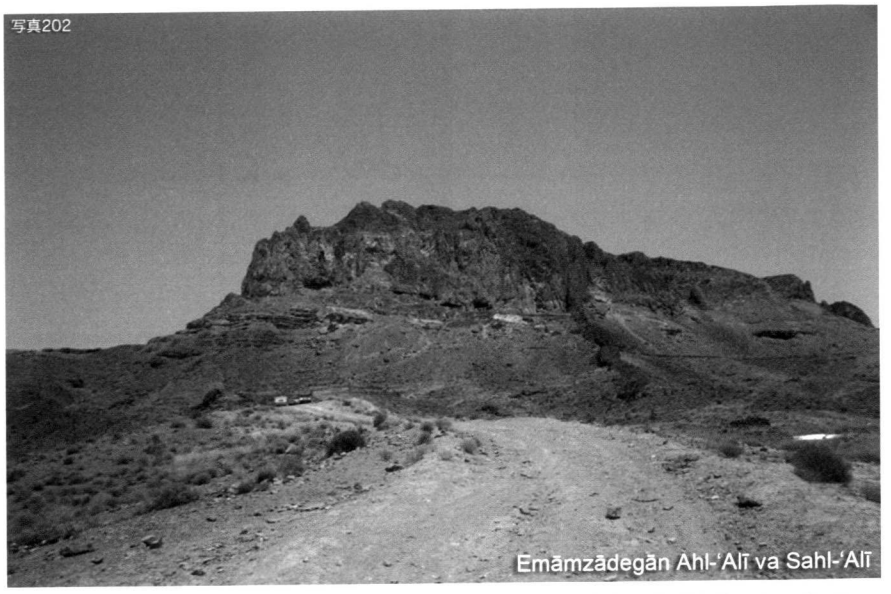

写真202　Emāmzādegān Ahl 'Alī va Sahl 'Alī。廟のある山を見上げて。山腹中央部の洞穴がエマームザーデ。最寄りの村からでもここまでビヤーバーンの中を10キロ以上、山の裏側からは数キロを歩いて来なくてはならない場所。

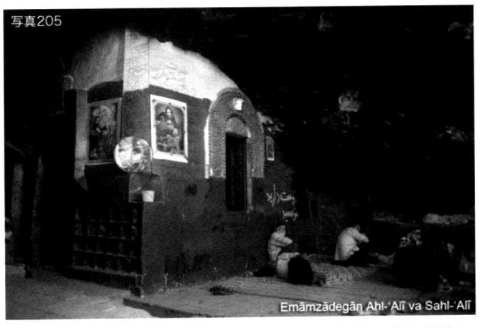

写真205　Emāmzādegān Ahl 'Alī va Sahl 'Alī。廟の前方にある空間。廟が岩窟の奥に作られているのが分かる。外に近いこの場所には、ズィヤーラトの家族が昼食を取ったり昼寝をしたりしている。

写真206　Emāmzādegān Ahl 'Alī va Sahl 'Alī。岩にはめ込まれるようにして置かれた大型の木製ザリー。ザリーの扉は開いており、中の墓石に触れることができる。ザリーの上の額はズィヤーラト・ナーメ。

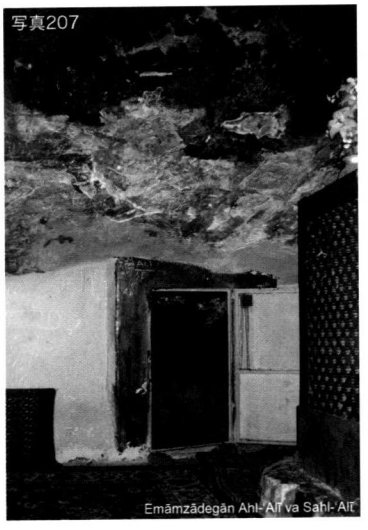

写真207　Emāmzādegān Ahl 'Alī va Sahl 'Alī。ザリーの裏側にある泉。扉が取り付けられ、その奥にシャファーを与えてくれる泉があるが、現在は水はほとんど涸れてしまっているという。

写真208　Emāmzādegān Ahl 'Alī va Sahl 'Alī。ザリーの奥に湧いている泉。明かりが届かないのでほとんど真っ暗。写真のランプはザリー内の墓石の上に置かれていたものを借りた。

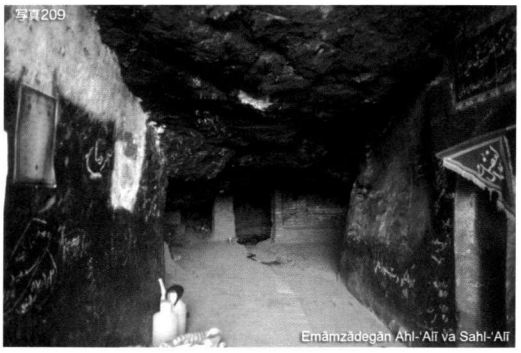

写真209　Emāmzādegān Ahl 'Alī va Sahl 'Alī。廟の奥にある泉。もともと水量は少なかったそうだが、こちらも現在はほとんど涸れてしまっている。

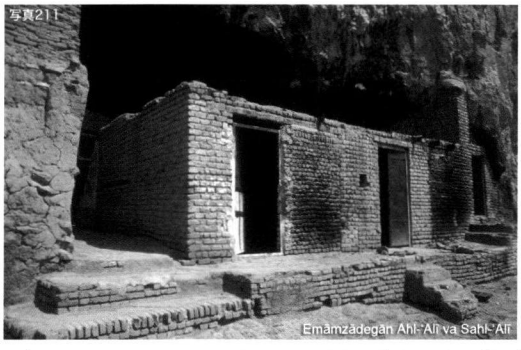

写真211　Emāmzādegān Ahl 'Alī va Sahl 'Alī。廟への入り口脇に作られたザーエルサラー。部屋があるだけで、床もむき出しのまま。この裏に廟が作られている。

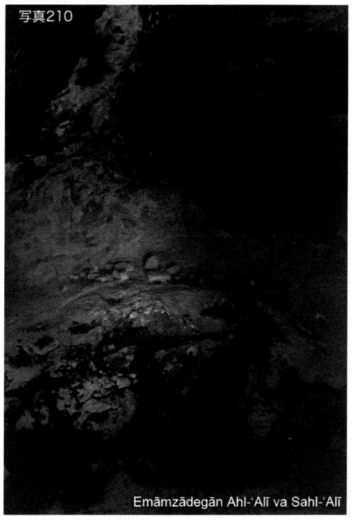

写真210　Emāmzādegān Ahl 'Alī va Sahl 'Alī。廟の奥にある泉。ごくわずかな水が湧いているのみ。泉の奥の石は、昔、占いを行っていたものと言われたが、その内容についての説明は受けられなかった。

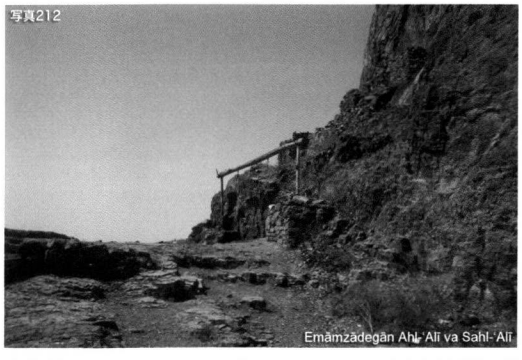

写真212　Emāmzādegān Ahl 'Alī va Sahl 'Alī。廟のある空間の突端。犠牲の家畜を吊すための場。その向こうはHouzeye Solṭānに続くビヤーバーン。

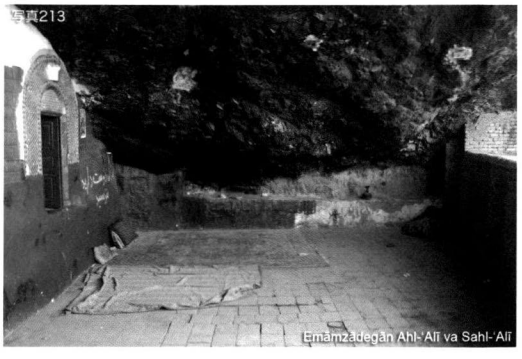

写真213　Emāmzādegān Ahl 'Alī va Sahl 'Alī。廟とザーエルサラーの間の空間。岩が大きくせり出しているのが分かる。

写真214　Emāmzādegān Ahl 'Alī va Sahl 'Alī。岩に石灰で貼り付けられた宗教的な絵。イラン人に確認したところ、恐らくナジャフのものとのこと。絵の周囲には古いろうそくの跡が見られる。

写真215　Emāmzādegān Ahl 'Alī va Sahl 'Alī。廟の前に並んだ墓。遠くの村から遺体を運んできて埋葬したとのこと。

ラーフジェルド地区（Dehestāne Rāhjerd）の聖所

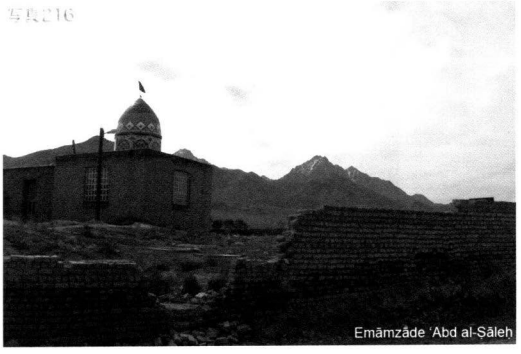

写真216　Emāmzāde 'Abd al-Ṣāleh。廟の裏手から。周囲には新旧の墓地が広がっている。

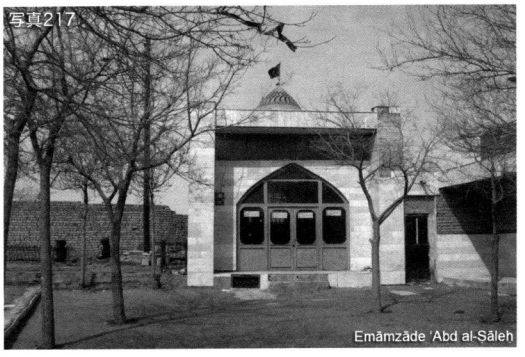

写真217　Emāmzāde 'Abd al-Ṣāleh。廟の正面から。廟の右手にはマスジェド、ホセイニーエなどが作られている。

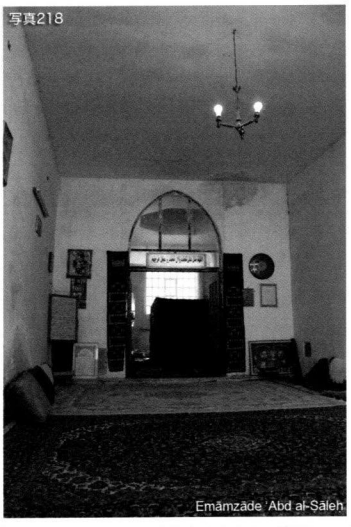

写真218　Emāmzāde 'Abd al-Ṣāleh。廟の中。扉の向こうにザリーが見えている。あちこちに雨漏りのようなしみができている。週に一度、短時間しか扉を開けないためか、廟内全体が湿っぽい。

写真219　Emāmzāde 'Abd al-Ṣāleh。布で覆われた木製ザリー。正面の布が開いているのは、そこを開いてザリーにダヒールを結ぶため。写真でもいくつかのダヒールが確認できる。

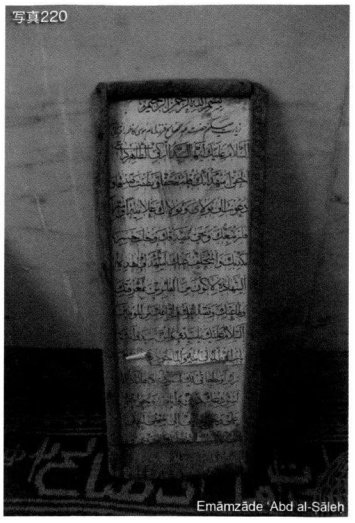

写真220　Emāmzāde 'Abd al-Ṣāleh。ハラムの壁に立てかけられていたズィヤーラト・ナーメ。木の板に紙に書いたズィヤーラト・ナーメが貼り付けられている。

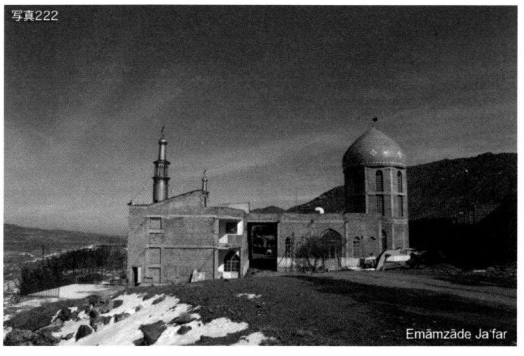

写真222　Emāmzāde Ja'far。街道を下りた廟の裏手から。廟そのものも工事が進行中だが、廟の周辺も駐車場など、整備が進められている。

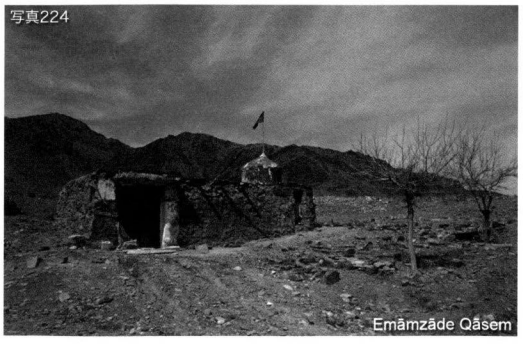

写真224　Emāmzāde Qāsem。村から離れた山の中で、特に水が湧いているわけでもない場所に、ぽつんと小さな廟が建てられている。

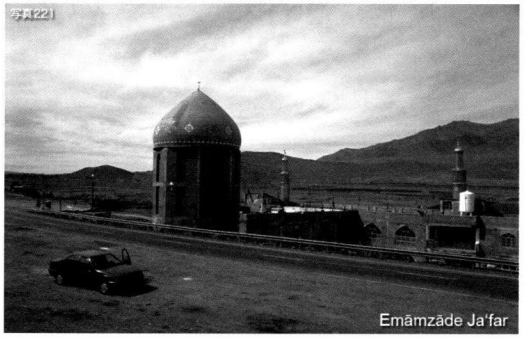

写真221　Emāmzāde Ja'far。街道沿いに建つ青いドームの塔。写真中央から右にかけての窓はザーエルサラー。街道を行き来する人々が立ち寄ったり、遠くから泊まり込みでやってきたりするという。

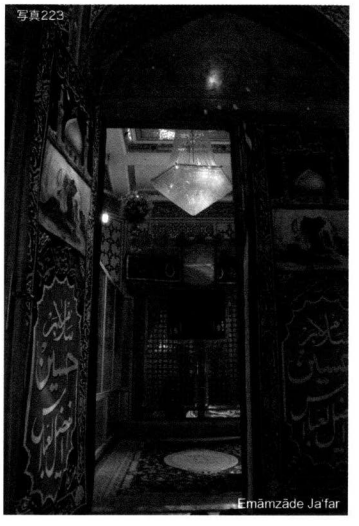

写真223　Emāmzāde Ja'far。男女別に区切られ、中央にエスファハーン型ザリーが置かれたハラム。扉手前のサロンは未完成で、床を張る工事が続けられていた。

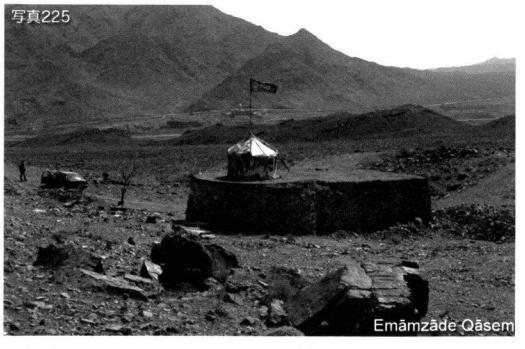

写真225　Emāmzāde Qāsem。廟の背後から見下ろすと、緑の見える谷の向こう側、正面の山の麓にエマームザーデ・ジャアファルが見える。

写真226　Emāmzāde Qāsem。廟の入り口からハラムを見る。電気が通っていないためにこちらの部屋は薄暗いが、ハラムはドームに明かり取りの窓があり、昼は明るい。

写真227　Emāmzāde Qāsem。ハラム内は墓石の周りを人がめぐるのがやっとの広さ。写真を撮ろうにも難しいほど。墓石の上に置かれた皿の上にはまだ新しいろうがいくつも見られる。

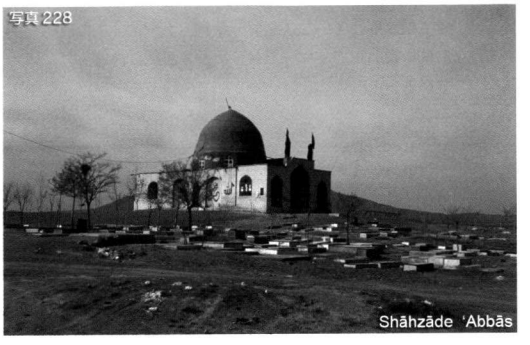

写真228　Shāhzāde 'Abbās。村から離れた墓地の中。少しだけ周囲よりも高くなった場所に建つ、緑色の大きなドームを持つ新しい廟。

写真229　Shāhzāde 'Abbās。廟の中。広い部屋の中に、ほぼ正方形の大理石張りの墓石が置かれている。床に直接墓石を置くのではなく、水盤のような中に置かれている。

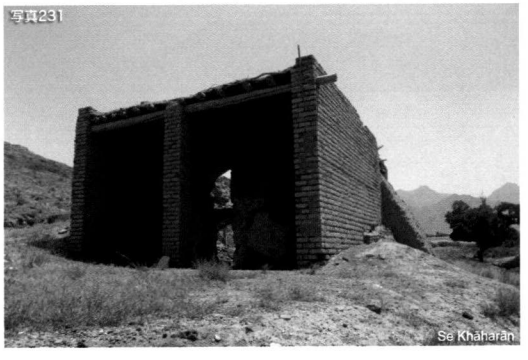

写真231　Se Khāharān。廟正面近くから。正面部分は新しく煉瓦で補修が行われているのが見て取れるが、壁は落ち、廟内への入り口の扉は既になくなっている。

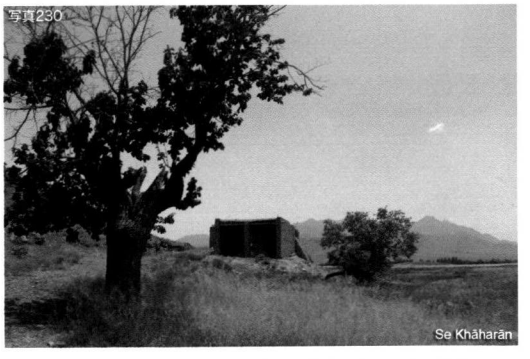

写真230　Se Khāharān。正面から。数本のトゥート（桑）の木に囲まれている。左手の土手の向こうはゴム-アラーク街道。

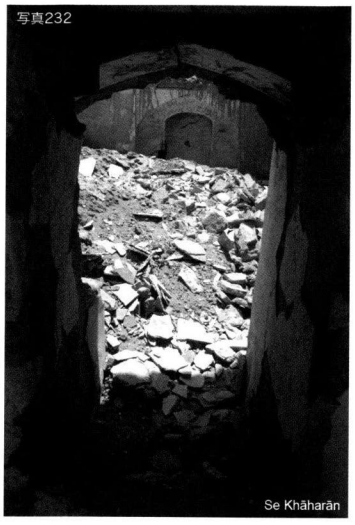

写真232　Se Khāharān。正面入り口から廟内を除くと、屋根や壁がすっかり崩れ落ちてしまっていることが分かる。

写真233　Se Khāharān。廟内のがれきの上から正面入り口方向を見て。ドームがあったと思われるが、天井部分は完全に崩落してしまっている。人が訪れている様子は全く見られない。

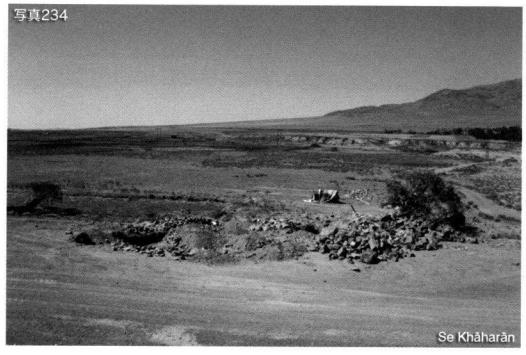

写真234　Se Khāharān。2009年秋に訪れた際には、廟が完全に取り壊されて新築されるための準備が整えられていた。

写真235　Pīr Maḥmūd。近くの村などで廟の位置を尋ねると目印として示される、ほぼまっすぐに並んだ木々。特に水があるわけでもなさそうな土地に緑が見えるのが印象的。その中に見える小さながれきのかたまりが、ピール・マフムード。

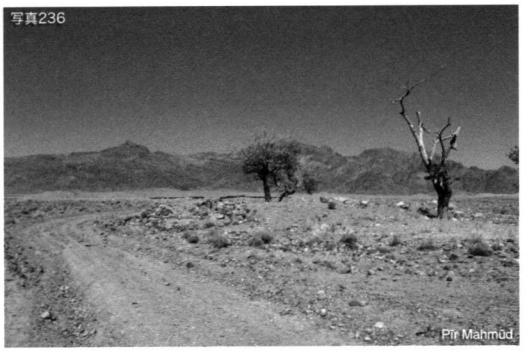

写真236　Pīr Maḥmūd。道がカーブしているところに見える石と土の残骸が、かつての廟。現在は完全に崩壊し、壁の跡しか残っていない。

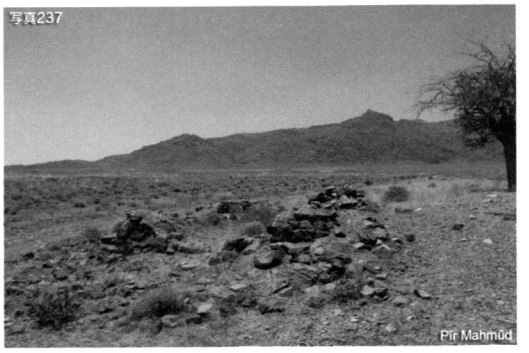

写真237　Pīr Maḥmūd。完全に崩壊している廟の跡。一部屋だけの小さな廟があったことがかろうじて分かる程度。誰かが訪れている様子は全く見られない。

写真238　Pīr Qeiṣar。廟の建つ丘の中腹から見上げて。壁を残して完全に崩れてしまっていることが分かる。正面部分は壁も残っていない。左手奥に見える木が固まって生えているところが泉。

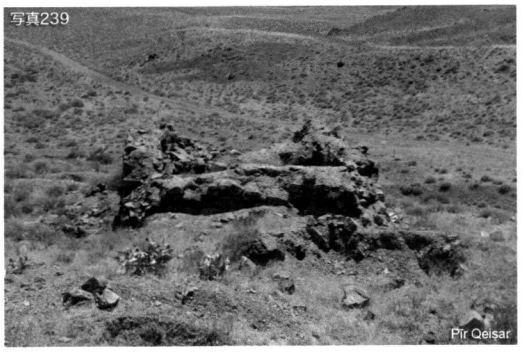

写真239　Pīr Qeiṣar。丘の上から。壁に囲まれた中はがれきですっかり埋もれていて、誰かが訪れている様子も全く見られない。

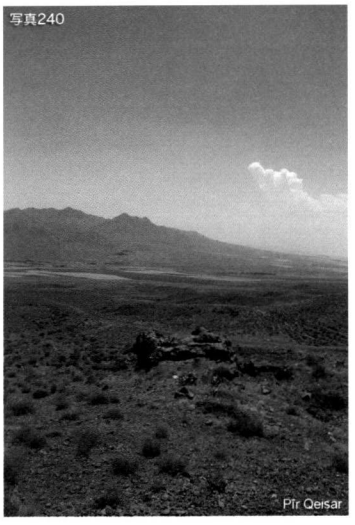

写真240　Pīr Qeiṣar。更に丘の上から。山裾に見えるいくつかの緑の固まりは村。正面に見える山の向こうにKhāje Ḥasanがある。

写真241　Khāje Ḥasan。廟の裏手から。廟の右半分が塔状のハラム部分。左半分がそれに付随するファサード部分。

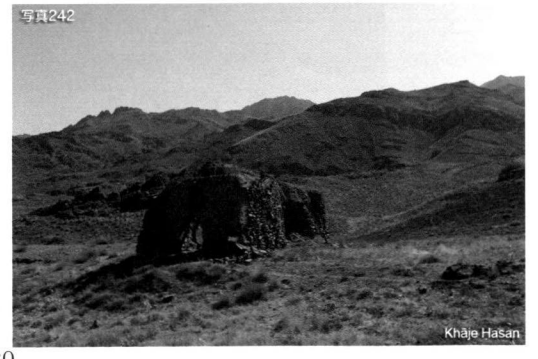

写真242　Khāje Ḥasan。正面から。天井ドームや壁の一部は崩れてしまっているのが分かる。

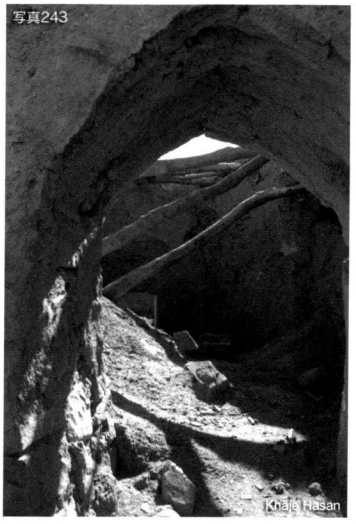

写真243　Khāje Ḥasan。正面入り口から廟内を覗くと、天井の梁も落ちてしまっていて、ハラムまでたどり着くのも容易ではない。

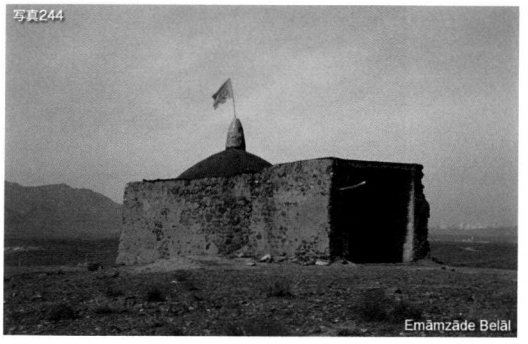

写真244　Emāmzāde Belāl。ビヤーバーンの中にぽつんと建つ廟。水も何もない低い丘の上。現在のゴム-アラーク街道とデリージャーン街道が分岐する地点近く。

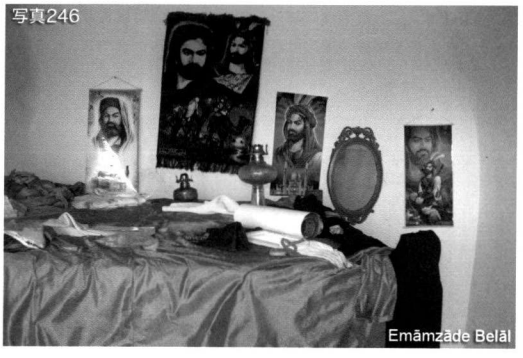

写真246　Emāmzāde Belāl。ハラム内。外は落書きだらけだが、さすがにこちらには落書きは全く見られず、漆喰も真っ白なまま。埃もほとんどなく、人が訪れ、手入れをしている様子がうかがえる

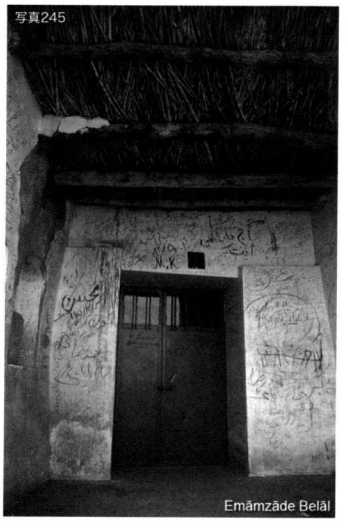

写真245　Emāmzāde Belāl。正面入り口。手入れは悪くないのだが、漆喰にはほとんど全て落書きがされている。

キャハク地区（Dehestāne Kahak）の聖所

写真248　Emāmzāde Soleimāne Gharīb。廟背後の丘の上から。廟が丘にぴったりと張り付いて建てられているのが分かる。また、両側が切り立った、谷底にあることも実感できる。

写真249　Emāmzāde Soleimāne Gharīb。村人の夢に従って掘り出された墓石。エマームザーデのものではなく、別人のもの。漆喰がはがれた下から現れた古い壁面から、ここで盛んにろうそくが灯されていたことが分かる。

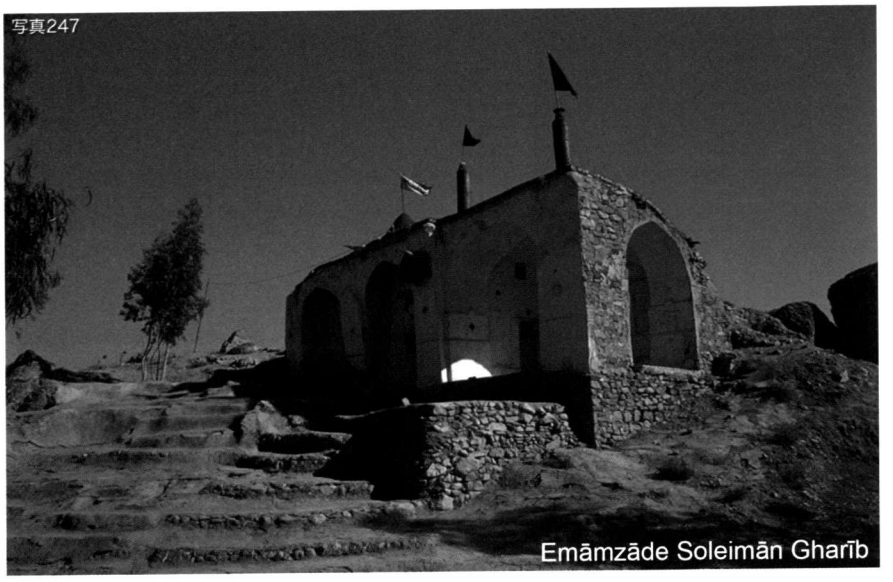

写真247　Emāmzāde Soleimāne Gharīb。低い丘の上に建つ廟。廟の周囲には最近植えられた果樹のバーグが見えるが、管理人などの話によると、少し前まで廟の周囲はビヤーバーンだったとのこと。

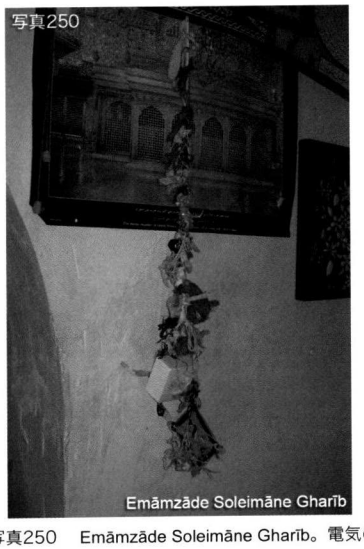

写真250　Emāmzāde Soleimāne Gharīb。電気のコードを利用して結ばれたダヒール。廟内には、同じようにして結ばれた多数のダヒールが見られ、人々の信仰を集めていることが伺える。

写真251　Emāmzāde Soleimāne Gharīb。古いザリーあるいは窓枠を利用して結ばれたダヒール。ザリーだったのか窓枠だったのか、ハーダムに聞いてみたがはっきりとした答えは得られなかった。

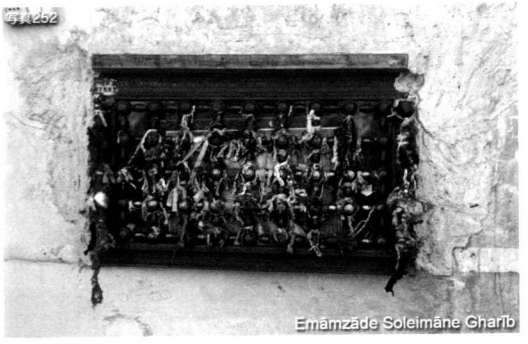

写真252　Emāmzāde Soleimāne Gharīb。廟の外から窓にはめ込まれたザリーに結ばれたダヒール。新しいものが多く、人々が熱心にここを訪れて、祈っている様子が分かる。

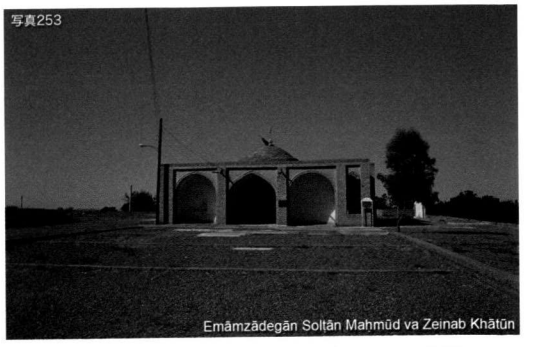

写真253　Emāmzādegān Solṭān Maḥmūd va Zeinab Khātūn。修理されてきれいになった廟と、整地された廟周囲の墓地。墓地は古い墓を整理して、新しいものを残したとのこと。そのため場所がずいぶん空いているが、今後、埋まっていくだろうとのこと。